

平成27年度
道徳の授業づくりポイント集



平成28年3月

熊本市教育委員会

指導課

はじめに

現在、道徳教育は大きな変革期にあります。平成27年3月の学校教育法施行規則改正により、「道徳の時間」は「特別の教科 道徳」となり、小中学校学習指導要領及び特別支援学校小中学部学習指導要領の一部改正が行われました。これを受け、平成27年4月1日からは、移行措置期間に入り「道徳の教科化」が、大きく動き始めました。

また、学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」では「今後グローバル化がますます進展する中で、社会を構成する一人一人が、高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たす必要がある」と道徳教育の重要性を指摘しています。

そのような中、本市は、「徳・知・体」の調和のとれた教育都市くまもとを目指し、平成26、27年度に、文部科学省の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の委嘱を受け、熊本市の次代を担う子どもたちの心を育てるために道徳教育の改善・充実に臨んでまいりました。

その取組の1つとして、教科化の目指す授業「考える道徳」「議論する道徳」への転換が課題であることから、道徳教育ブロックリーダー委員会を設置し、授業実践に取り組み、多様な方法を活用して授業を構想するため指導方法のポイントを設けた指導案を作成いたしました。

この指導案を参考にいただき、子どもたちの実態に応じた「特別の教科 道徳」における質の高い多様な指導方法の実践に向け役立てていただき、熊本市における道徳教育が一層充実していくことを願っています。

最後になりましたが、編集委員の皆様には、実践事例の提供、文案の検討などご協力いただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

熊本市教育委員会

目次

小学校編

() は、各指導案のポイント

- 1 小学校低学年「ほんたと かんた」(文科省)・・・1
(問題解決的な授業の展開 考え、話し合う場の設定の工夫)
- 2 小学校低学年「お月さまと コロ」(文科省)・・・7
(考える場の設定 実践意欲を高めるための場の設定 構造的板書の工夫)
- 3 小学校中学年「ブラッドレーのせい求書」(文科省)・・・13
(多面的・多角的に考える場の設定の工夫)
- 4 小学校中学年「六セント半のおつり」(文科省)・・・19
(価値観を高め、道徳的態度を育てるための展開の工夫)
- 5 小学校高学年「うばわれた自由」(文科省)・・・25
(物事を多面的・多角的に考える場の設定 構造的な板書の工夫)
- 6 小学校高学年「ブランコ乗りとピエロ」(文科省)・・・31
(思考の可視化 協同学習の場の設定 議論し共感する場の設定 実態調査の工夫)

中学校編

- 1 中学校1年生「一冊のノート」(文科省)・・・38
(問題解決的な学習を取り入れた授業の展開)
- 2 中学校1年生「二通の手紙」(文科省)・・・44
(考え、議論する場の設定 心情の変化の可視化)
- 3 中学校2年生「卒業文集最後の二行」(文科省)・・・50
(いじめを乗り越える仲間作りのための指導計画 考え、議論する授業展開)
- 4 中学校2年生「二人の弟子」(文科省)・・・56
(初発の感想の疑問から学習課題を設定した主体的な学習の展開)
- 5 中学校3年生「海と空―樫野の人々―」(文科省)・・・62
(考え、議論する場の設定 構造的板書の工夫)

小 学 校 編

ポイント:問題解決的な授業の展開 考え,話し合う場の設定

第1学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時 場所 年 組教室

指導者 ○○ ○○

- 1 主題名 よいと思うことはすすんで【A-1 善悪の判断, 自律, 自由と責任】
資料名 「ぼんたとかんた」(「わたしたちの道徳 小学校1・2年」文部科学省)

2 主題について

- (1) 本主題の内容項目は、よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うことをねらいとしている。低学年の段階においては、何事にも興味・関心を示し意欲的に行動することが多い反面、生活経験の少なさから引っ込み思案になったり物おじしたりすることもある。低学年のうちに、よいことと人間としてしてはならないことを判断する力を養うことは大切であると考え。また、よいと思ったことができた時のすがすがしい気持ちを想起させ、正しいことは進んで行おうとする意欲と態度を育てていくことが大事である。
- (2) 本学級の児童の実態は次のとおりである。(調査対象○人)

善悪の判断に関する意識調査の結果

問1 《自習時間に、後ろの席の友達2人が小さい声でふざけておしゃべりを始めました。あなたは、どうしますか?》

- ・「だめだよ。」と言う…○人 主な理由：いけないことだから。迷惑になるから。
- ・(黙っていて)後で先生に言う…○人 主な理由：自分では言えないから。いけないことだから。
- ・(黙っていて)誰にも言わないでおく…○人 主な理由：自分では言えないから。
- ・一緒におしゃべりをする…○人 主な理由：楽しそうだから。

問2 《よいことを、進んでしていますか。》

- ・いつもしている○人 だいたいしている○人 あまりしていない○人

問3 《やってはいけないことをしたことがありますか。》

- ・ある○人 ない○人 思い出せない○人

問1から、よいことと悪いことの区別はできても、様々な理由から行動できない自分を自覚していることがうかがえる。日常の様子では、よいことを進んですることもよくあるが、目先の事や自分の事だけ考えて行動してしまい、失敗したり迷惑をかけた後後悔している姿を見ることがある。

- (3) 本資料は、次のとおりである。

仲よしのぼんたとかんたは、公園で一緒に遊んでいたが、かんたは、ぼんたが止めるのも聞かず、入ってはいけない裏山へ入ってしまう。ぼんたはじっと考えて、「ぼくは行かないよ。だってあぶないから。」と叫ぶ。その声に驚いて、かんたが裏山から飛び出してくる。そして、かんたも自分で考えて裏山に行かないことに決め、2人

で気持ちよく公園で遊ぶ。

児童の日常生活にも似たようなことがあり、自分自身のことと重ね合わせて二人の思いを想像しながら、よいことを進んで行うことについて考えることができる資料である。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

ポイント

①導入の段階

- ・アンケートの結果を提示してよいこととわかっていてもできないことを話し合い、本時の道徳的価値の方向付けをするとともに、本時の学習の課題を提示する。

ポイント

②展開前段の段階

- ・心情円盤を用いて迷っているかんだの葛藤を考えた後、自分で考えて判断することの大切さを実感できるように、自分ならどうするかと、その理由をシートに書き役割演技をする。
- ・自分ならどうするか理由について「どうしてそう考えたの」などの切り返しの発問をして話し合うことで、高い価値の判断理由に気付かせるようにする。
- ・展開後段に入る前に、よいこととは誰のためなのかを考えさせることによって、善悪の判断をする規準は1つではないことに気付かせる。また、すぐに判断せずに多面的・多角的に考えることもおさえる。

③展開後段・終末の段階

- ・よいことやしてはならないことに関する生活の場面を想起しやすくするために「わたしたちの道徳」を活用する。

ポイント

- ・行動だけでなく「多面的・多角的に考えたか」「誰かのことを考えたか」を振り返り、出し合うことで、これからの生活に生かせるようにする。
- ・終末では、道徳的価値をこれからの生活に広げていけるように、子どもが「よいことかどうかを考えて行動をすることが大切である。」と感じられるような話をする。

④人権尊重の視点から

- ・子供の表情や活動の様子に応じて補助発問や個別の支援を行ったり、話し合いの場を設けたりすることで、どの子供も本時のねらいが達成できるようにする。

3 指導計画

次	各教科・その他	主な指導内容	体験活動等
事前	道徳 規則の尊重 「黄色いベンチ」	・資料を読んで、約束やきまりを守りみんなが使うものを大切にすることを考える。	日常の学校生活
本時	主題名 よいと思うことはすすんで 資料名 「ぼんたとかんだ」(「わたしたちの道徳小学校1・2年」文部科学省) 中心価値 【A-1 善悪の判断, 自律, 自由と責任】		
事後	生活科 「こうえんであそぼう」	・公園に出かけ、動植物を観察したり、友達と遊んだりする中で、自然や人々の様子に気付かせる。	見学旅行

4 本時の学習

(1) ねらい かんたが迷った末に、裏山に行かないことを決めた理由を考えることを通して、よいことと悪いことの区別をし、よいことを進んで行う判断力を育てる。

(2) 展開

時間	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 ☆評価	備考
導入 3分	1 本時の価値を知る。	アンケートの結果を見ましょう。 ・わたしは、できると思う。 ・分かっているけど、できない時があるよね。	ポイント ○アンケートの結果を提示して、よいこととわかっていてもできないことを話し合い、本時の道徳的価値の方向付けをするとともに本時の学習の課題を提示する。	
展開 前段 25分	まよったときは、どうしたらいいのかな。		○よいことややってはいけないことにはどんなことがあるのかについて、確認しておく。	
	2 資料「ぼんたとかんた」を視聴して話し合う。 (1) 大声で「行かない」と言うぼんたの気持ちを考える。	大きな声で言った時のぼんたの気持ちを考えましょう。 ・行きたいけど、危ないから行かないよ。 ・かんたくんも、行っちゃだめだよ。	○ひみつ基地の魅力を話し合うことで登場人物に共感しやすくする。 ○中心発問で多様な考えが出るように、資料をかんたが迷うところまで提示する。 ○ぼんたが迷った末に断ったことをおさえることで、ぼんたの強い意思に気付かせる。	大型テレビ・紙芝居フラッシュカード ハート図心情円盤
	(2) 自分がかんただったら、どうするかを考える。	あなたが、かんたならどうしますか。それは、なぜですか。 かんた 「行かない」 ・しかられるかもしれない。 ・ぼんたくんもいかないなら、ぼくもいかない。 ・けがをするかもしれない。 「行く」 ・おもしろそう。 ・気を付けるから大丈夫。 ぼんた(役割演技) ・かんたくんが、行かなくてよかった。 ・行ったら先生に言うよ。	ポイント ○心情円盤を用いて迷っているかんたの葛藤を考えた後、自分ならどうするかとその理由をシートに書く。 ☆自分の判断と理由をシートに書くことができたか。 ○よいことをすることの大切さを理解させるために、行かなかった時と行った時のその後まで役割演技をする。	心情円盤学習シート お面
		ポイント ○役割演技をさせながら、理由について繰り返し発問をして話し合うことで、高い価値の判断理由に気付かせるようにする。 T: 叱られないなら、裏山に行きますか? C: 叱られなくても危ないことはしない方がいい。 T: もしぼんたくんが、やっぱり行くと言い出したらどうしますか? C: 自分で決めたことだから、行かない。		

	<p>(3) 資料の後半を視聴し、裏山に行かずに公園で遊ぶ2人の気持ちを考える。</p> <p>(4) 本時の問題について考える。</p>	<div data-bbox="465 157 861 301" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ひみつきちにいくのをがまんしたのに、さすがにいきもちになったのはなぜだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり考えて行動できたから。 ・よい行動ができたから。 <div data-bbox="465 535 861 679" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>よいことややってはいけないことをしようかやめようか迷った時は、どうしたらいいのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・よいことや悪いことを考える。 ・自分や友だち、家族、地域の人、先生のことを考える。 ・その後のことを考える。 	<p>○迷うこともあるけど、しっかり考えてよいことをすることは清々しい気持ちになることに気付かせる。</p> <p>○迷った時の判断規準を子どもの言葉でまとめる。</p> <div data-bbox="892 628 1418 891" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ポイント</p> <p>○よいこととは誰のためなのかを考えさせることによって、善悪の判断をする規準は1つではないことに気付かせる。すぐに判断せずによく考えることもおさえる。</p> </div>	<p>挿絵</p>
<p>展開後段 15分</p>	<p>3 今までの自分を振り返る。</p>	<div data-bbox="465 1009 861 1153" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>よいことをしたことや、してはいけないことをやってしまったことはありますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレのスリッパを並べなかった。面倒だったから。今度からは、次の人のことを考えて並べようと思う。 ・いじわるをしている友だちにだめだよと言った。かわいそうだったから。言っよかったと思う。 <div data-bbox="465 1489 1418 1677" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ポイント</p> <p>○行動だけでなく理由も考える。その際、展開前段2(4)でまとめた「よく考えたか」「誰かのことを考えたか」を振り返り、出し合うことで、これからの生活に生かせるようにする。</p> </div>	<p>○「わたしたちの道徳」を参考に、よいことやしてはならないことについて考え話し合う。</p> <p>○自分のことを振り返り、シートに書く。行動の理由や今の気持ちも考えるようにする</p> <p>☆自分の行動とその理由を振り返ることができたか。</p>	<p>わたしたちの道徳</p> <p>大型テレビ</p> <p>学習シート</p>
<p>終末 2分</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<div data-bbox="465 1764 861 1830" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>先生の話をお聞きしましょう。</p> </div>	<p>○よいことを進んでするには、勇気がいるが大切であることを感じるような話をする。</p> <p>○本時の価値への高まりを自覚するために、学習シートのハートマークを塗る。</p>	<p>学習シート</p>

なまえ

Blank rounded rectangular box for writing a name.

ちいしを するじろ

がつ じち

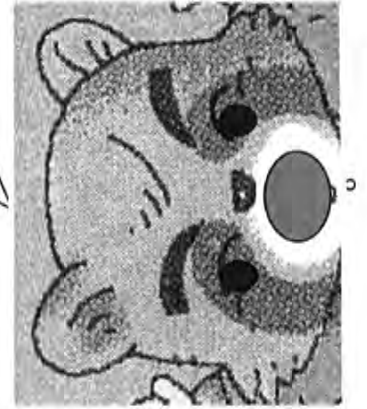
ほんたとかんだ

○あなたが、かんだなら、どうしますか。

Blank rectangular box for writing an answer.

だん、

Large speech bubble with horizontal dashed lines for writing.



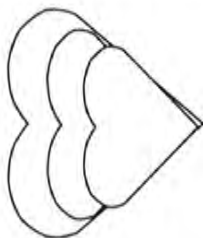
○ちいしをおもひしをすすんでしたしゆや、しはらけならしをして
しまつたしはありますか。そのりゆやおもちもかおもしゆ。

えんきよ

りゆや・おもち

Large rectangular box with horizontal dashed lines for writing.

ふくらみ
ハート





よいこと・やっではいけないこと

まよったときは、どうしたらいいのかな？

ほんたとかんた

ほんた

かんた

ひみつきち

「だめだよ。」



「ふたりでいこうよ。」

「くいきくいき。」



「あそびたい。でも・・・。」



「いかない。よくかんがえてきめた。だつて、あぶないから。」

うらやまから、でてきた。
「どうしたんだい？」

だまつて、かんがえた。



いかない

いく

しかられるかもしれないから。
きまりだから。
ほんたくんもいかないなら、ほくも
いかない。
けがをするかも、しれないから。
うちのひとが、しんばいするかもしれ
ないから。

ばれないなら、いい。
おもしろそうだから。
きをつけるから、だいじようぶ。

につきり



いかなくてよかった
すつきり

いいことかわるいいことか？
あとでどうなるのか？
じぶんのことだけかんがえない。
ともたち、いえの人、ちいきの人
すぐにきめない。よくかんがえる。

ポイント:

考える場の設定 実践意欲を高めるための場の設定 構造的板書の工夫

第2学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時 場所 年 組教室

指導者 ○○ ○○

1 主題名 素直に伸び伸びと 【A-2 正直, 誠実】

資料名「お月さまと コロ」(「わたしたちの道徳 小学校1・2年」文部科学省)

2 主題について

(1) 子供が健康的で自分らしさを発揮するためには、自分の気持ちに偽りのないようにし、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。

この時期の子供は、様々な人との関わりの中で、いけないことをしてしまったときに、意地を張って非を認められなかったり、素直に謝れなかったりして、暗い心になってしまうことも少なくない。

そこで、自分自身の心に誠実になって、いけないことをしてしまったときには素直に非を認め、謝ることで心が晴れ晴れとなることに気付き、素直に伸び伸びと生活していこうという態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 本学級の子供は、友達と仲よく活動しているが、時に、自分の立場が不利になりそうだったり、自分の思いがうまく伝えられず気持ちが高ぶったりしている場合は、自分の非をなかなか認められないこともある。そこで、この時期に、素直に非を認めて謝ることの大切さを十分に考え、明るい心で楽しく生活することができるよう指導したい。意識調査による子供の実態は、次のとおりである。(調査対象○人)

さとしさんは、家の人に叱られて嫌な気分でした。公園のブランコを思いっきりこいでいたら、友達のようこさんが「私にも貸して。」と言ってきました。さとしさんは、その時どんな気持ちだったのでしょうか。

さとしさんは、「まだ乗ったばかりだから貸さないよ。」と言って、ずっと乗っていました。ようこさんはしばらく待っていましたが、怒って公園から出て行ってしまいました。さとしさんは、その時、どんなことを考えたのでしょうか。

判断力 心情	こっちは頭にきているんだ。謝るものか。	謝ろうか、どうしようか。	ようこさんに謝ったほうがいいかなあ。	ようこさんに悪かった。謝ろう。
うるさいなあ。あっち行ってよ。				
貸さないよ。				
貸そうかな、どうしようかな。				
ようこさんに貸そう。				

(3) 本資料は、コオロギのコロが、たった一人の友達のギロに意地悪をして怒らせ、素直に謝ろうかどうか迷っている時に、お月さまとふれ合うことで、素直な気持ちをもつことができるという話である。素直になれた自分、素直になれなかった自分の思いを考えることを通して、素直に伸び伸びと生活することの大切さに気付くことができる資料であると考え。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

① 導入

- ・「素直」についての考えを出し合うことで、ねらいとする価値への方向付けをする。

② 展開前段

- ・資料の内容を十分捉えることができるように、場面絵を使いながら資料提示を行う。その際、「コロはどんな子か」を考えながら聞くように指示することで、コロがどのように変わっていったか考えやすいようにする。
- ・ギロが東の畑や西の河原に誘う場面、歌を教えようとする場面では、子供たちがコロ、指導者がギロになって動作化することで、次第に二人の気持ちが通い合わなくなっていくことを感じ取ることができるようにする。

ポイント

- ・コロの二つの心が闘っている場面では、コロの気持ちを隣同士で話し合うことで、謝りたくても謝れないと悩んでいることに気付くことができるようにする。
- ・草の露の玉に映った暗く沈んだ悲しそうな顔を見て涙を流した時のコロの気持ちを考えることで、素直に謝れなかったコロの気持ちに共感できるようにする。
- ・今までとは違う顔になったコロの気持ちを考える時は、顔の表情を見比べながら素直になることのよさに気付くようにすることで、ギロに謝る決心に至ったコロの思いを考えることができるようにする。

ポイント

- ・次の日、コロがギロに何と話したか考え、役割演技をすることで、ねらいとする価値の大切さを実感することができるようにする。

③ 展開後段・終末

- ・自分の生活を振り返り、自分の非を認めて謝ったり素直な気持ちで生活したりすることの大切さに気付くことができるようにし、これからの自分の言動について考えることができるようにする。

④ 人権教育の視点から

- ・自分の生活を振り返るとき、友達とのトラブルについて話すことも考えられるので、今後どうしていきたいかと投げかけ、自分の非を認め素直な気持ちで生活することが大切であるということに気付くことができるようにする。

3 指導計画

	各教科・その他	主な指導内容	体験活動等
事前	日常生活	・素直に謝れたかどうかについて考え、自分の生活を振り返る。	
本時	・主題名 素直に伸び伸びと ・資料名 「お月さまとコロ」 ・中心価値 A-2 正直、誠実		
事後	日常生活 帰りの会	・素直に謝れたかどうかについて考え、自分の生活を振り返る。 「わたしたちの道徳P47」	

すなおな心

二年 組

お月さまと コロ

()

- どうしてコロはなみだをながしたのでしょうか。

草の露の玉に顔を映したコロの顔

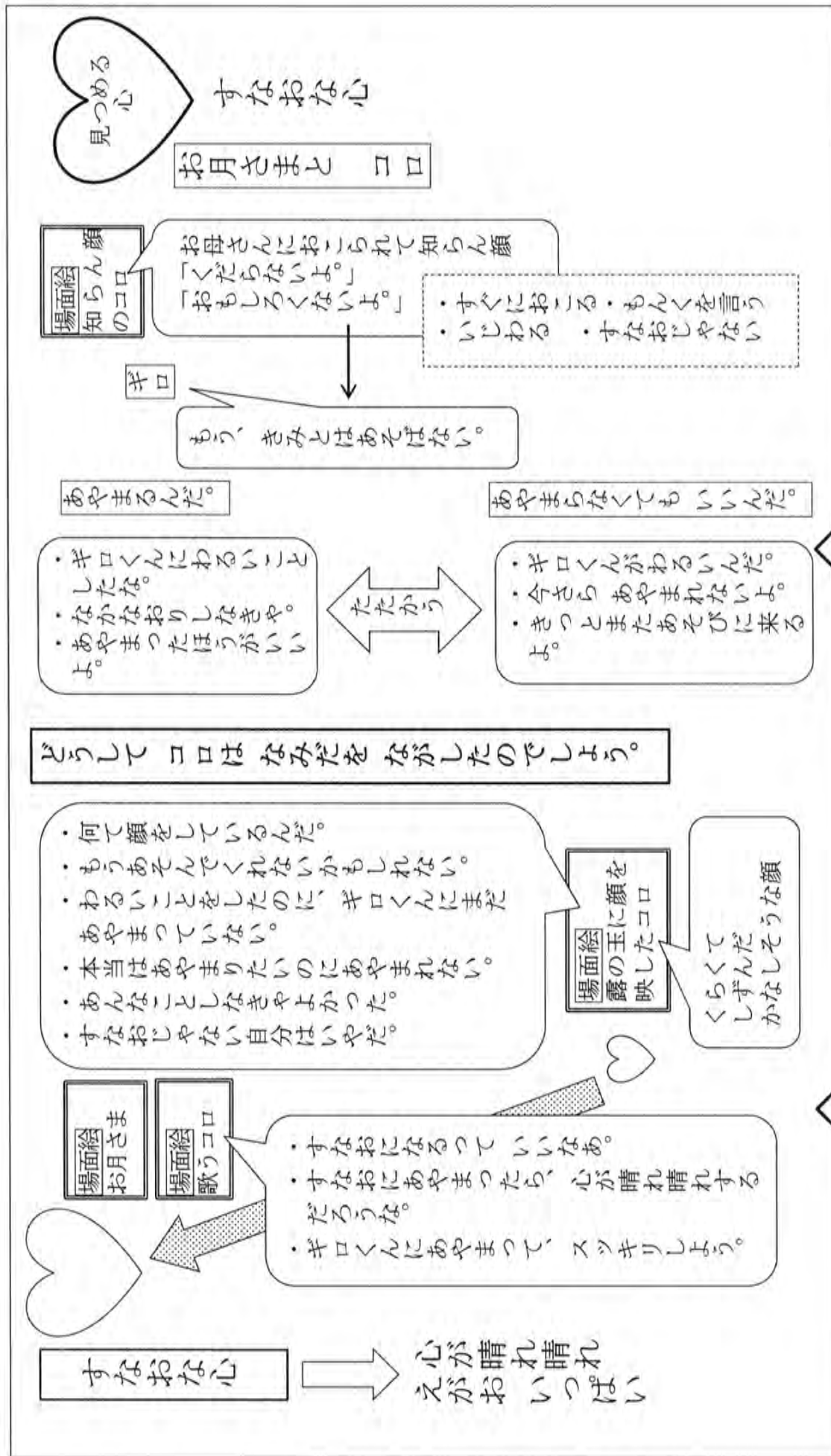
Blank writing area with horizontal dashed lines for the first question.

- すなおにあやまったことがありますか。あやまれなかったことがありますか。その時、どんなことを思いましたか。

Blank writing area with horizontal dashed lines for the second question.

学しゅうのふりかえり ◎よくできた。○できた。△もう少し。

- ①自分の考えをみんなにつたえることができましたか。()
- ②友だちの考えを聞くことができましたか。()
- ③「だいたいな。」と感ずることはありましたか。()
- ④「くしていきたい。」と思うことはありましたか。()



ポイント 葛藤場面对比的に示す。

ポイント 主人公の心の変容を、ハート図の大きさの変化で示す。

ポイント:多面的・多角的に考える場の設定の工夫

第3学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時 場所 年組教室

指導者 ○○○○

1 主題名 家族みんなで協力しあって【C-14 家族愛・家庭生活の充実】

資料名「ブラッドレーのせい求書」

(「わたしたちの道徳 小学校3・4年」 文部科学省)

2 主題について

- (1) 本主題の内容項目は、家庭生活の中で家族の愛情に包まれている生活の中で、当たり前を受けている思いに気づき、家族への敬愛の念を抱くと共に家族のために進んで手伝いなどを実践する子供を育てることをねらいとしている。

家庭は、子供にとって最初に集団生活を学ぶ場所である。この時期の家庭生活が、子供の人間形成にとって大切な基盤となるものだと考えられる。しかし、最近では家族の形態が、大家族から核家族へと大きく変化し、家族内でのコミュニケーションを図る機会も少なくなってきた。このような現状であるからこそ、家族への敬愛の気持ちを深め、家庭生活に積極的に関わろうとする態度を育てることが大切である。お手伝いは、子供が家庭生活の中で関わる経験が多く、「家族愛」「家庭生活の充実」を感じる学習としては適切である。

- (2) 中学年の時期の子供は、低学年の頃と比べると、友達関係にも広がりが出てくるものの、親や家族に対しても意見を反発的な言動をする子供も出てくる時期でもある。一方、お手伝いにもよく取り組む時期でもあり、その内容や理由も様々である。家族のことを思って取り組む子供、言われるからやるという子供、言われても取り組まない子供など、その差は大きい。

意識調査による子供の実態は、次のとおりである。(調査対象 人)

① 今、家庭でお手伝いをしていますか。

・はい ・いいえ

② どんなお手伝いをしたことがありますか。

()

小学校3年生になると、手伝いの経験は多いことが分かる。しかし、全くしない子供も少なくないことも分かった。また、大多数が親から役割として与えられた「お手伝い」をしている子供が多く、自主的に考えて取り組む子供は非常に少ない。まだ、3年生になったばかりということで、お手伝いを任せられる経験が少ない子供もいる。しかし、家族のために、家族の喜ぶ顔を見たいからという理由でする子供はまだ少ないと考える。そこで、この資料で学ぶことで家族からの愛情や家族への愛情に気付かせ、家族のために実践しようという心を育てたい。

(3) 本資料は、まだ自己中心的部分が見える中学年の子供が、母親とのやりとりを通じて、家族への愛情を再確認する内容である。

ブラッドレーが母親に対して、自分が行っているお手伝いの代わりとして、小遣いを請求する。母親はその行為を悲しく思いながらも、子供の要求通りのお金を渡す。しかし、お金と同時に請求書を渡し、ブラッドレーはそれを見て自分の行いを反省し、母親に謝るという話である。子供に身近な「手伝い」という題材で価値に迫ることができる内容になっている。

(4) 指導にあたって

① 導入では、子供が今実際に取り組んでいるお手伝いの項目や内容について、たくさんの意見が出るように、肯定的に取り上げるようにする。ここでしっかりと今の自分を見つめることが、展開後段や終末の振り返りに役立つようにしたい。

ポイント

② 展開前段では、資料を読み、「もしあなただったら」ということも含めて、考えさせることで主人公の自己中心性に共感させるようにする。その後、ブラッドレーの行為をどう思うかという発問し、多角的に思考させる。また、議論の中で教師が子供の意見を切り返していくことで価値へと迫らせるようにする。

主人公と母親の気持ちを黒板に左右に分けて書くことで、家族に対しての思いの違いを視覚的に分かりやすくする。

③ 展開後段・終末では、導入での自分と学習後の自分とを比較して考えることで、「家族愛」「家庭生活の充実」という価値に気づき、学習後の生活で実践していこうという意欲を持つと共に、自己の課題を見つけることができるようにする。

④ 人権教育の視点から、学級の中には様々な家族構成の家庭があることに留意しながら学習を進めていく。また、話し合い活動を積極的に取り入れることで、発言に苦手意識を持つ子供にも自信を持たせるようにする。

3 指導計画

時	各教科等	主な指導内容	体験活動等
事前	学年行事 「見学旅行」	・食品が家庭にどのようにして届くのかを学びながら、家庭生活への感謝の気持ちを実感できるようにする。	見学旅行 ミカン狩り体験
本時	・主題名 家族みんなで協力しあって ・資料名 ブラッドレーのせいきゅう書 ・中心価値 C-（14）家族愛・家庭生活の充実		
事後	学校行事 「学習発表会」	・いつもお世話になっている家族へ感謝し、発表会への取り組みを通して、自分の成長を実感することができるようにする。	発表会練習 学習発表会

<p>展開 後段 15分</p>	<p>3 これまでの自分の自 分やこれを見つ める。</p>	<p>家族の一員として、これからの自分はどのようなことをしていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お金がほしいという理由でなく、家族が喜んでくれるような手伝いをしたい。 ・ 家族に喜んでもらう方が手伝いをして気持ちがいかから、自分から進んで何でも手伝いたい。 ・ 感謝の気持ちを持って家族に接したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動の理由も聞くようにする。 ・ 「大好きな家族のため」「喜んでくれる」という点を、大切にしながら価値を深める発問をする。 ・ 導入で振り返った手伝いの中に、家族のために自然に手伝いをしていることはいか振り返らせる。 <p>☆ 自分自身を振り返ることができたか。</p>	
<p>終末 5分</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>先生の話をお聞きしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族のために進んで手伝いをする話ができるよ。 	

ブラッドレーのせいきゆう書

年 組 ()

○なぜ、ブラッドレーの目はなみだでいっぱいになったのでしょうか。

○家族の一員として、これからの自分はどのようなことをしていきたいですか。

○学習のふりかえり ◎よくできた ○できた △もう少し

- ① 自分の考えを、みんなに伝えることができましたか。()
- ② 友だちの考えを聞くことができましたか。()
- ③ 「していきたい。」と思うことができましたか。()

◎板書の例

自分がしているお手伝い

かたたたき・せんたくものほし(たたみ)・りよう理の手つだい
かたづけ・皿あらい・ふとんたたみ(しき)・ふろあらい

「家族」で大切なことは、どのようなことだろう。

ブラッドレーのせいぎゅう書

ブラッドレーのせいぎゅう書

お使いちん 1ドル
おそうじした代 2ドル
音楽のけいこに行ったごほうび
1ドル
合計 4ドル

ブラッドレー

- ・いつも、自分はんぼつている
- ・お小遣いもらうのは、当たり前
- ・お金もらえたら、うれしい!

ブラッドレー
の顔

お母さんからのせいぎゅう書

親切にしてあげた代 0ドル
病気をしたときのかん病代 0ドル
服や、くつや、おもちゃ代
0ドル
食事代と部屋代 0ドル
合計 0ドル

お母さん

- ・愛する子どものために!
- ・お母さんの役目だから。
- ・家族の幸せのために。
- ・みんなが元気に・・・

お母さんの顔

ブラッドレーの目は、なぜ、なみだでいっぱいになったのでしょうか。

- ・自分の書いたせいぎゅう書を反省したから。
- ・お母さんの気持ちに気づいたから。
- ・お母さんに悪いことをしたと思ったから。

ブラッドレー
の顔

家族の一員としての、これからの自分は



家族が喜んでくれるよう
な手伝いをする
感謝して生活したい
家族を大事にしたい

ポイント: 価値観を高め、道徳的態度を育てるための展開の工夫

第4学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 ()

場所 4年 組教室

指導者 ○○ ○○

1 主題名 正直に明るい心で 【A-2 正直, 誠実】

資料名 「六セント半のおつり」(「わたしたちの道徳 小学校3・4年」文部科学省)

2 主題について

- (1) 人が互いに信頼し合いながら生活していくためには、自己の過ちを認めて反省し、正直に伝えるなどしながら改めていこうとする誠実な態度が必要である。過ちや失敗をごまかそうとしたり、うそを言ったりすると、他者の信頼を失うだけでなく、自責の念や後悔が生じて心が晴れない状態が続くこともある。

中学年の段階では、正直であることによって自分自身が明るい気持ちで生活できる快適さを自覚できるようにすることが求められる。そして、過ちや失敗を素直に反省し、正直に伝えようとする気持ちと態度を育てたい。また、特に仲の良い仲間集団で活動することが増えてくる段階において、周囲の雰囲気にならなず、自分の強い意志をもってよりよい行動をしようとする態度につなげることが重要である。

- (2) 意識調査による子供の実態は次の通りである。(調査対象○人)

○「正直」とは、どんなことだと思いますか。

- ・うそをつかないこと。
- ・本当のことを言うこと。

○普段、正直に行動していますか。

- ・いつも正直に行動している。
- ・時々うそをつくことがある。
- ・本当のことを黙っていることがある。
- ・よく、うそをついたりごまかしたりする。

○正直に行動しなかったのは、なぜですか。

- ・怒られるのが嫌だったから。
- ・少しぐらいはいいと思ったから。
- ・恥ずかしかったから。
- ・友達と一緒にうそをついたから。

○正直に行動したとき、どんな気持ちでしたか。

- ・すっきりした。
- ・本当のことを言ってよかったと思った。
- ・許してもらって、ほっとした。

意識調査の結果と日常の様子から、子供たちは「うそをつくのはよくないこと」という意識はもっているが、正直に行動できないことも多い。その理由としては、「怒られる」「恥ずかしい」など自分が不利な立場に立たされること、小さいうそなら言ってもよいという意識、友達など周囲にならされたことなどが挙げられた。そ

ここで、資料から「自分が不利な立場に立っても」「小さいことでも」「いつも、すぐに」正直に行動する人物の生き方に気付かせ、価値観を高めていきたい。また、正直に行動できたときは「すっきりした」「よかった」など、気持ちが明るくなることを経験している子供も多かった。そこで、資料の人物の気持ちや自分自身を振り返っての気持ちを出し合わせる活動を取り入れることで、正直に生きることで自分自身が明るい心で生活できるという快適さに気付かせたい。

(3) 本資料は、第16代アメリカ合衆国大統領エイブラハム・リンカーンが若い頃に商店で働いていたときの出来事が書かれている。客に釣り銭を少なく渡してしまったことに気づき、寒い日の夜に2時間歩いて6セント半（日本円で6円ほど）のお金を返しにいったエイブの行動について考えることで、正直に生きることについての理解を深め、自分自身のために正直に明るい心で生活しようとする態度を養うのに適した資料である。

(4) 指導にあたっては次の点に留意する。

① 導入

・「もしも誤って家族が育てている花を折ってしまったらどうするか」という設定で自分がどのように行動するかを想像させることによって、ねらいとする価値における自分の状態を自分で把握できるようにする。それにより、課題意識をもち、主体的に学習に参加できるようにする。

ポイント

② 展開前段

・資料から、エイブが「自分が不利な立場に立つことになっても」「小さいことでも」「いつでも、ずっと」正直に行動していることに気付かせ、「正直」という価値観を高めさせ、それに照らし合わせて自分自身を見つめなおさせることで実践意欲へとつなげていきたい。

・エイブが正直に行動できる理由を考えて話し合う問題解決的な学習活動を取り入れることで、エイブの価値観や生き方に触れ、正直に生きることのすばらしさを感じ取れるようにする。

③ 展開後段・終末

・展開前段で学習した価値観に照らし合わせて自分自身を振り返らせることで、資料と自分をつなぎ、自分との関わりの中で価値に対する考えを深められるようにする。

ポイント

・正直に行動できたとき、できなかったときの気持ちを振り返らせ、全体で共有していくことで、正直であるからこそ明るい心で生活できることを理解し、実践意欲につなげていくようにする。

④ 人権教育の視点から

- ・導入や展開の段階で考えを出し合ったり話し合ったりする活動を取り入れ、多様な考え方や思いがあることを感じ取らせるとともに、違いを認め合いながらみんなで学びを深めていこうとする学級集団づくりにつなげていきたい。

3 指導計画

	各教科・その他	主な指導内容	体験活動等
事前	・道徳【正直・誠実】 資料名「正直五十円分」	・資料を読み、本当のことを正直に伝えることについて考える。	
本時	・主題名 正直に明るい心で ・資料名 六セント半のおつり ・中心価値 A-2 正直、誠実		
事後	・学級活動(2)ウ 正直な心で友達や周りの人と生活しよう ・帰りの会等	・「わたしたちの道徳」38～40ページを読み、友達や周りの人と正直に明るい心で生活するために取り組みたいことを発表し、実践する。	取り組みシートの記入・発表

道徳学習シート

六セント半のおつり

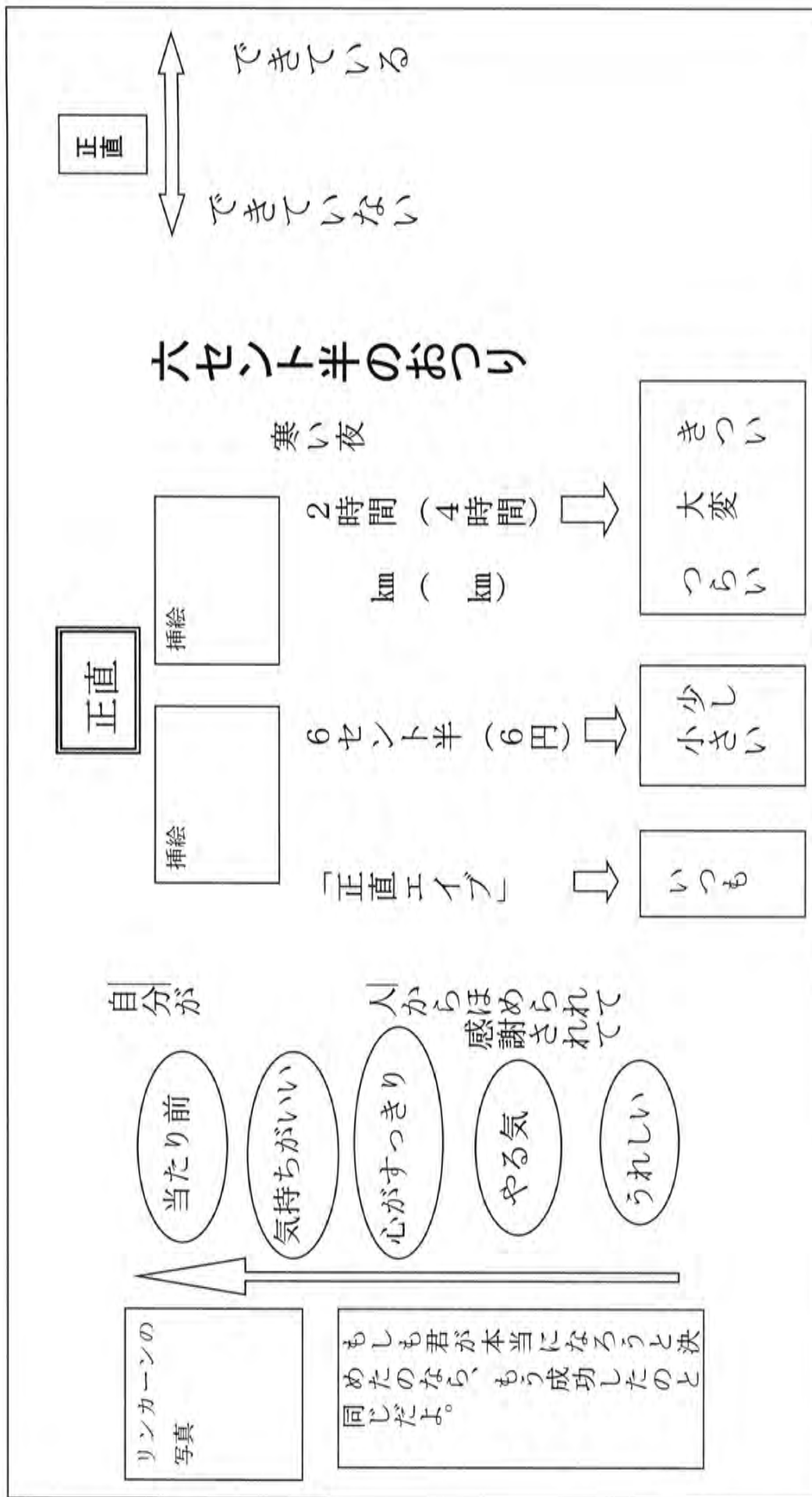
年 組 名 前

○エイブは、なぜこのように行動できるのでしょうか。

○エイブのように正直に行動できたことや、行動できなかつたことはありますか。

○未来に向かって…一言感想

○板書の例



ポイント:物事を多面的・多角的に考える場の設定 構造的な板書の工夫

第5学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 校時 場所 年 組教室

指導者

- 1 主題名 自律的で責任ある行動を 【A-1 自主・自律】
資料名 「うばわれた自由」(「私たちの道徳 小学校5・6年」文部科学省)

2 主題について

- (1) 自己を高めていくためには、自由な考えや行動が大切である。しかし、自由と自分勝手とは区別される。自由には、自分で自律的に判断し行動したことによる自己責任が伴う。自分の自由な意志によって生きながらも、そこには、内から自覚された責任感の支えが必要なのである。

高学年の段階では、自主的に考え、行動しようとする傾向が強まるが、一方で、自由の捉え違いをして、自分勝手に振る舞いをしてしまうことも少なくない。自分勝手に振る舞いは、周囲に迷惑をかけたり、時には自由を奪ってしまったこともある。そこで、自由な考えや行動のもつ意味、さらに、それに伴う自分の責任を踏まえた自律的な行動の大切さに気付かせ、生き方につなげていくような態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

- (2) 本学級の子供の実態は次のとおりである。(調査対象〇人)

- ① 「自由」とは、どんなことだと思いますか。
・他の人に迷惑をかけない、いやなことをしないなら何をしてもいい。(人)
・誰にもじゃまされないこと。(人)・我慢しないこと。(人)
・したいことが何でもできる。(人)・決まりやマナーがないこと。(人)
- ② 「自由」にしていること、「自由」にできたことはどんなことですか。
・休み時間(人) ・やるべきことが終わった後(人) ・休日の10時以降(人)
- ③ 「自由にしているよ」と言われたら、どんなことをしたいですか。
・ゲームをしたり、漫画やテレビを見たり思う存分したい。 ・遊ぶ。
・何でも買う。 ・行きたいところへ行く。 ・趣味(読書・絵・料理)をしたい。

意識調査から、自由の捉え方が様々であることがわかる。そのため、実際の学級活動や係り活動等で、みんなの意見を大切にして活動を進める場合と、周囲の状況を考えない自分本位の考えで進めてしまう場合がある。また、自由にしている場面で、自由を勘違いして規律を破ってしまうこともある。そこで、多様な考えを出し合いながら、集団の関わりの中での自由について考え、他者を思いながら判断して自律と責任ある行動をしようとする道徳的態度を育てたい。

- (3) 本資料は、大きく二つの場面で構成されている。思いのままに行動することが自由であると思っているジェラルに、森の番人ガリューがその誤りを諭すが全く聞き入れず、ガリューを牢に入れてしまう場面。もう一つは、その後、国内の乱れが元でジェラル自身が囚われの身となり、改めて自由について考えるという場面である。ジェラルの思いや行動を考えることを通して、真の自由とは何か、自由の大切さと規律ある行動の意義について考えることができる資料である。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意したい。

① 導入

- ・自由について子供の既存の価値観を確認するために、アンケート結果を提示し、道徳的価値の方向付けをする。

② 展開前段

- ・事前に子供が資料を読んでおくことで、内容把握を高めさせ、中心発問への時間を十分に確保することができるようにする。
- ・資料の感想を交流しながら、王子の考える自由が自分勝手であるということへ焦点化し、問題意識をもつようにする。

ポイント

・自分勝手な行動がもたらす影響について考え、自律的に判断し行動すること、自由に伴う自己責任の大きさに気付くことができるようにする。その際、王子と他者との関わりが見える構造的な板書、発問を工夫し、子供が多様な考え方や感じ方によって学び合うことができるようにする。

③ 展開後段

・学習シートの工夫、アンケートの活用、構造的な板書による振り返りにより、導入と展開後段での自己の変容を感じたり、これからの課題や目標を見つけたりできるようにする。

ポイント

④ 終末

- ・「私たちの道徳」の言葉を紹介し、道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。さらに、授業後に「親子道徳」を実施することで、道徳的価値への意識の高まりと、さらなる実践意欲へとつなげるようにする。

⑤ 人権教育の視点から

- ・一人一人の子供が自分の意見を表現できるように、ペア学習やグループ学習を取り入れ、互いの思いをしっかりと聞き合い、よさに気付き合えるようにする。

3 指導計画

	各教科・その他	主な指導内容	体験活動等
事前	学級活動 学級レクレーションで心をつなごう	自らを律しつつ協調しながら自主的に実践していく態度を育てる。 活動を振り返り、よさや課題を見だし、自らの向上を目指す態度を育てる。	話し合い活動 準備 学級レクレーション 振り返り
本時	・主題名 自律的で責任ある行動を ・資料名 うばわれた自由	・中心価値 A-1	自主・自律
事後	学級活動 「自律できる生活を見直そう」 行事「集団宿泊教室」	自分たちの生活の問題点について話し合ったり、実践したりすることで、自由における自律的で責任ある行動の大切さを実感できるようにする。	話し合い活動 実践 振り返り 集団宿泊教室

4 本時の学習

(1) ねらい 主人公の涙の理由を考えることを通して、自由な考えや行動のもつ意味や大切さについての理解を深め、自律的で責任ある行動をしようとする実践意欲と態度を育てる。

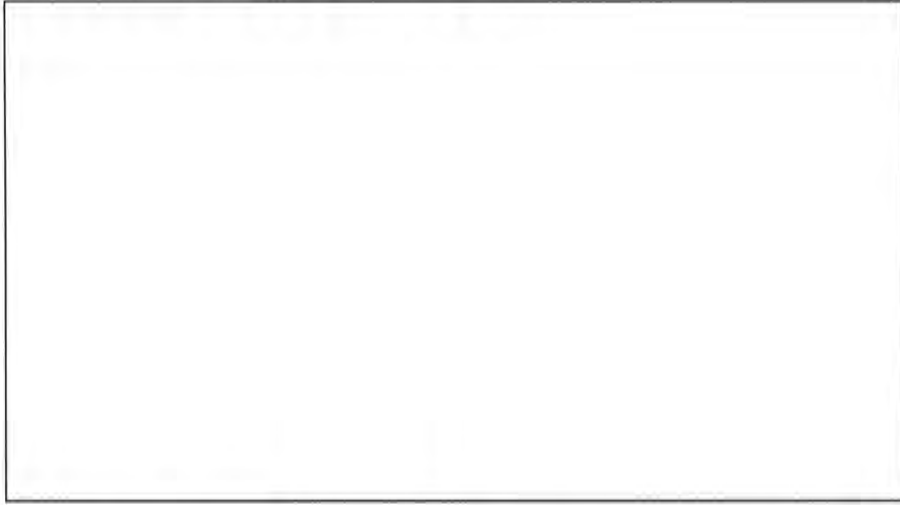
(2) 展開

図 程	学習活動	主な発問等(○) 予想される反応(・)	◇指導上の留意点 ☆評価	備考
導入 5分	1 アンケートをもとに、「自由」に対する考えを交流する。	○「自由にしている」と言われたらどんなことをしたいですか。 ・仕事や宿題をしないで思いっきり遊びたい。 ○「自由」とは、どんなことだと思いますか。 ・したいことを何でもしていい。 ・がまんしなくていい。	◇児童の既有的価値を確認し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。	アンケートのまとめ
展開 前段 25分	2 「うばわれた自由」を聞き、話し合う。 (1)資料を聞き王子に対する感想を出し合う。 (2)王子の変化から、「本当の自由」について考える。 (3)自分たちが考える自由について話し合う。	○心に残ったのはどんなことですか。 ・ガリユーは責任感がある。正しいな。 ・王子の自由は、自分勝手だ。 ○王子が涙を流したのは、なぜだろう。 ・つかまって、自由を奪われたことが悲しかった。 ・きまりを守ったガリユーを牢屋に入れてしまった。自分勝手の心がどんどん大きくなった。 ・周りに迷惑ばかりかけたから、信用されず、うらぎられてしまった。 ・国が乱れたのは、王子の仕事もせず、勝手なことばかりしていたからだ。 ○自分たちが考える自由について話し合おう。 ・きまりを守ることは大切。 ・自分の仕事はちゃんとしなければならない。 ・周りの人の迷惑になっていないか、自分をだめにしていないか考えて行動することが大切。 ・自分の行動に責任をもつことが大切。	◇場面絵やカードを提示しながら読み聞かせをし、読み終えたら黒板にはる。内容、王子と周りの人々との関わりを捉えやすいようにする。 【多面的・多角的に捉える場】(ポイント) ◇王子と周りの人との関わりが見える構造的な板書をし、王子の自由は他から見れば自分勝手であり、その行動が自他をだめにしたこと気付けるようにする。 ◇構造的な板書をもとに、自由についてグループで話し合う場を設定する。多面的な思考の発問(例)「本当の自由とはなんだろう」多角的な思考の発問(例)「ジェラル王の行為や生き方をどう思うか」自分自身のこととして考え、根拠をもって意見を述べ、多面的・多角的に道徳的価値を深めることができるようにする。	場面絵 カード 学習シート 学習シート

後 段 12 分	3 これまでの自分のことを見つめ、これからにつなぐ。	<p>○今日の学びを通して自由に行動する上で大切なことは何だと思いましたか。これからの生活にどう生かし、行動していきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指図をされないことが自由だと思っていた。これからは、役目やきまりを守った上で自由を大切にしたい。 ・自分たちできめていいよと言われたら自分の主張ばかりしていた。友達の思いを大切にして、自分勝手にしないようにしたい。 	<p>アンケート 学習シート</p> <div data-bbox="937 294 1398 797" style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>【構造的な板書に照らした自己理解】 (ポイント)</p> <p>◇「学んだこと」「これまで」「これから」という視点を提示する。また、事前アンケートと比べたり、構造的板書に照らしたりして振り返ることで、自己の変容の実感、課題や目標を見つけやすくする。</p> </div> <p>☆自律性や責任を大切にすることについて振り返りができたか。</p>	アンケート 学習シート
終 末 3 分	4 教師の話を聞く。	<p>○自由についてのメッセージを紹介します。</p> <p>○お家の人と話し合ってみましょう。</p>	<p>◇自由な考えや行動の意味、大切さが実感できるようにする。</p>	私 た ち の 道 徳

うばわれた自由

○王子がなみだを流したのは、なぜだろう。



場面絵
「牢屋で向き合う2人」

☆自分を振り返り、自由について感じたこと、考えたことを書きましよう。

今日の学び

これまで

これから

☆学習の振り返り よくできた◎ できた○ もう少し△

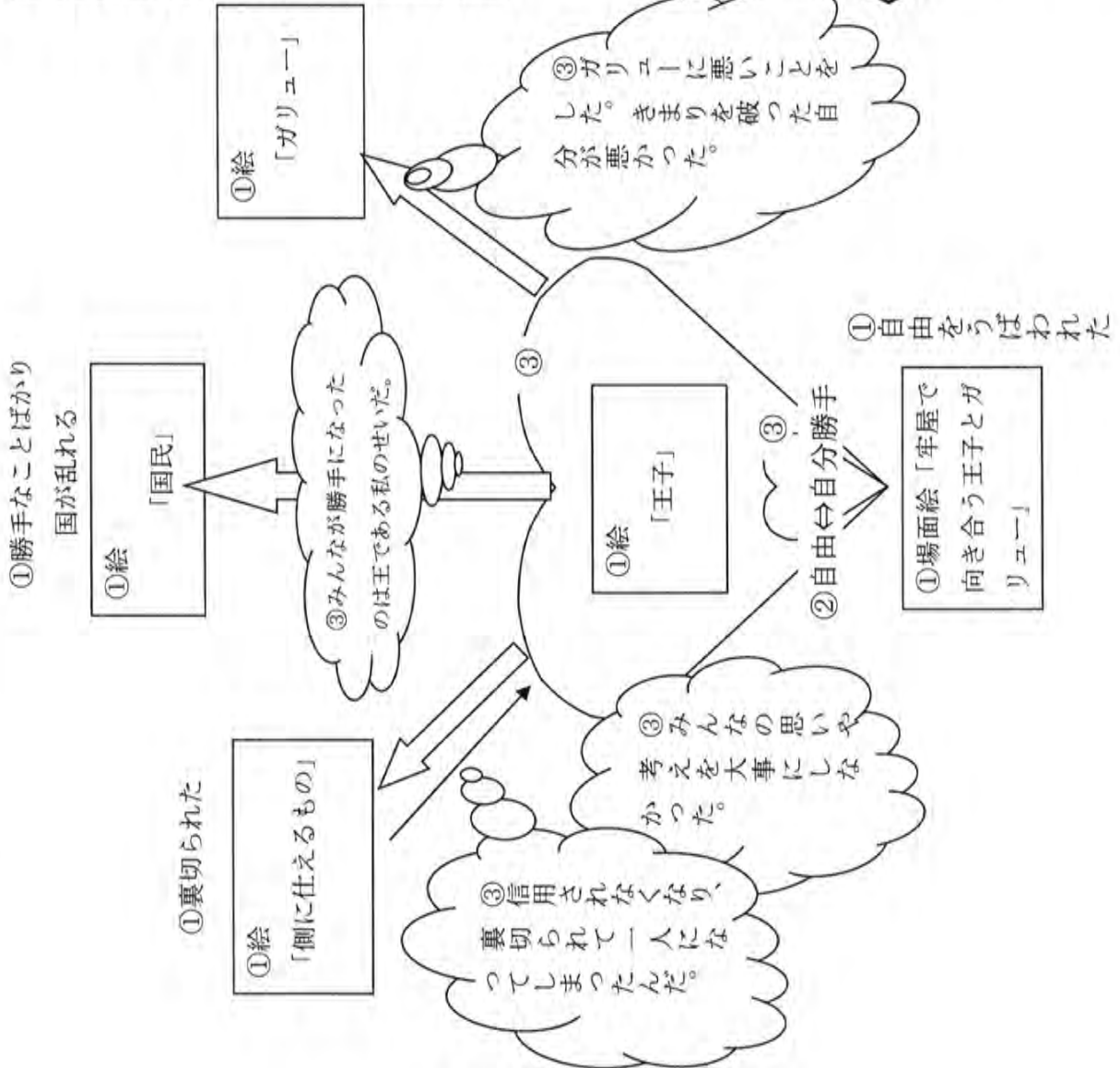
- ①自分の考えを伝えることはできましたか。()
- ②友達のを考えを聞くことはできましたか。()
- ③自分自身を振り返ることはできましたか。()
- ④これから「○○○したい」という思いはもてましたか。()

自由について考えよう。

- ・ したいことは何でもしていい。
- ・ がまんなくていい。

うばわれた自由

なみだを流したのは、なぜだろう。



ポイント
 王子と周りとの関わりが見える板書
 ① 資料提示ととともに話していく。
 ② 活動2の(1)で書く。
 ③ 活動2の(2)で書く。

「本当の自由」とはどうすること?

- 自由は自分勝手とはちがう。
- ・ きまりを守ることは大切。
 - ・ 周りの人のめいわくにならないか考えるのが大切。
 - ・ 自分の行動には責任をもつことが大切。

ポイント:

思考の可視化 協同学習の場の設定 議論し共感する場の設定 実態調査の工夫

第6学年〇組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時 場所 年 組教室
指導者 〇〇 〇〇

1 主題名 謙虚に、広い心をもって【B-11 相互理解・寛容】

資料名「ブランコ乗りとピエロ」(「私たちの道徳 小学校5・6年」文部科学省)

2 主題について

- (1) 広がりや深まりのある人間関係を築くために必要な、謙虚な心と広い心を持った児童を育てようとする内容項目である。中学年の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」という内容を受けて、高学年では、謙虚な心で自分とは異なる意見や立場を受けとめ尊重することや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度が大切になる。それは、中学校での「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」という内容へと発展する。

本主題は、自分のものの見方や考え方についての認識が深まる時期から、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになるこの時期の児童に、意義深い内容と考える。

- (2) 本学級の児童は、相手の気持ちや立場を考え、自分と異なる意見も尊重する大切さについて知識としては知っている。反面、利害の対立や意見の食い違いがあると、自己主張が強くなり、相手の考えを受け入れられない面も見られる。

本主題に関するアンケート調査の結果は、次のようになった。(調査対象〇人)

【経験調査】

○あなたは、友達と意見が違って困った経験はありますか。

・ある () ・ない ()

○上のあると答えた人は、どんなことですか。

()

○その時、どんなことを思ったり考えたりしましたか。

()

○あなたは、間違ったことをしたり、失敗したりした人を許したことはありますか。

・ある () ・ない ()

○上のあると答えた人は、どんなことですか。

()

○その時、どんなことを思ったり考えたりしましたか。

()

多くの児童が、友達と意見が違うことが原因で、言いあいになったり腹が立ったりしたという経験がある。また、児童の多くが人を許した経験があり、いやなことをされたり言われたりしたことを許した、と書いていた。

自分への利害の有無にかかわらず、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたより良いものが生まれるといったよさがあることを指導したい。

また、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして、謙虚な広い心で受け止め、適切に対処できるように指導したい。

(3) 本資料は、サーカスの舞台裏に生じた、サーカス団のリーダーであるピエロと、入団したばかりのブランコ乗りの二人の対立に焦点を当て、自分を大切にしながらも相手を尊重していくには、どのような見方や考え方をすることが大切なのかを考えることができるように構成されたものである。特に後半部分では、相手の立場を尊重し、ブランコ乗りの努力を認めようとして心を開いたピエロの広い寛容と謙虚な心の素晴らしさに気付かせたい。ピエロの心の動きなどを自分とのかかわりで考えることで、人に広い心で接して、自分と異なる立場や考えを受け入れることの大切さについて深く考えることのできる資料である。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

① 導入

- ・友達と意見が違って困った経験や、間違っことをしたり失敗したりした人を許した経験について振り返り、本時の学習への意欲をもつようにする。

② 展開前段

- ・場面絵の掲示を見ながら資料の録音を聞き、状況をつかむようにする。

ポイント「思考の可視化・協同学習の場」

- ・付箋紙にサム、ピエロ、団員たちの思いを書き、グループで紹介し合うことを通して、考えを深めたり広げたりする。

ポイント「議論し共感する場」

- ・より多くの子どもたちが納得し共感できる考えになるように、グループで考えを出し合い、さらに全体で話し合うようにする。

③ 展開後段・終末

- ・今日の学習で学んだことについて、これまでの自分やこれからの自分を見つめながら、ワークシートに書いて発表するようにする。
- ・終末では、わたしたちの道徳P. 80～81を読み、実践意欲を高める。

④ 人権教育の視点から

- ・一人一人が思いや考えを表現しやすいように、互いを認め励まし合うようにする。

3 指導計画

	各教科等	主な指導内容	体験活動等
事前	学活 「運動会を盛り上げる応援ボードを作ろう」 体育・学校行事 「運動会」	運動会の各団のテーマに沿って、児童全員が運動会を盛り上げるために、どんな応援ボードを作るか話し合う。 運動会までの取り組みや、運動会当日の活動の中で、相手の立場や状況を理解して、謙虚な広い心で相手に接する。	応援ボード作り 運動会準備 運動会練習 委員会活動
本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名 謙虚に、広い心をもって ・ 資料名 「ブランコ乗りとピエロ」(「私たちの道徳 小学校5・6年」) ・ 中心価値 B-11 相互理解・寛容 		

4 本時の学習

(1)ねらい ピエロが自分と異なった意見を受け止め、相手を尊重する心情を考える活動を通して、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする道徳的実践意欲を高める。

(2)展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点☆評価	備考
導入 3分	1 友達と考えや意見が違ったときのことを想起する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友達と意見が違って困ったことはありますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びが決まらずに言いあいになった 	○事前アンケート結果を提示し、価値への方向付けをする。	アンケート結果
周りの人と意見が違って困ったとき、どんな心が大切だろう				
展開 前段 22分	2 資料「ブランコ乗りとピエロ」を読んで、サム、ピエロ、団員たちそれぞれの思いを考える。 (1) 演技を終え疲れ果てたサムや、その姿を見た団員たちの思いを考える。 (2) ピエロの心の中からサムをにくむ気持ちが消えたわけを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">カーテンのすき間からサムを見上げているピエロは、どんなことを考えましたか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・あれほど言ったのに。 ・自分ばかり目立って。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">演技を終えてひかえ室に戻ったサムや団員たちは、どんな思いでしょう。</div> <p>【サム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーカスを盛り上げるため、精一杯の演技をしたのに、団員たちの態度は何だ。 <p>【団員たち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団の秩序を乱しやがって。リーダーはピエロだぞ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ピエロが、どのような思いで、サムはみんなに話したのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・サーカスを盛り上げるためには、自分本位ではだめという 	○サーカス団内のピエロ、サム、団員たちの立場を把握し、サムがよく思われていない様子や、各自がどんな思いでサーカスの芸に臨んでいるかを考えるようにする。 ・ピエロ…古くからのスター。団員たちのリーダー。 ・サム…他国の大きなサーカス団から招かれ、つい半年ほど前入団。 ・団員たち…(ピエロを慕う)	場面絵 資料の録音 ピエロとサムのふき出し 付箋紙 台紙
			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>【思考の可視化・協同学習の場】(ポイント)</p> <p>○サム、団員たち、ピエロの思いを付箋紙にそれぞれ書き、グループで対比しながら、ピエロの気持ちの変化を考え、話し合うようにする。</p> </div>	

		<p>ことを分かって欲しかったから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考え尊重することが大事ということを伝えなかったから。 		
	(3) 自分だけがスターだという気持ちを捨てた二人はどんな会話をしているか話し合う。	<p>夜が更けてまで、ピエロとサムはどんな話しをしていると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分中心でごめんな。 ・二人の芸を工夫して、新しい見せ場を作って盛り上げよう。 		<p>【議論し共感する場】(ポイント) ○子どもたちが、本時のねらいにそった考えに共感できるようにグループで意見を出し合い、全体で話し合うようにする。</p>
展開 後段 15分	3 自分を見つめながら、本時で学んだことをまとめる。	<p>今日の授業で学んだことを、これまでの自分やこれからの自分を見つめながら考えましょう。</p>	<p>○書く活動により、学びを整理するようにする。 ☆広い心で、自分と異なる意見や立場を尊重する思いが書けているか。</p>	ワークシート
終末 5分	4「私たちの道徳」P. 80～81を読む。	<p>「私たちの道徳」を読みましょう。</p>	<p>○「私たちの道徳」を読み、広い心を持って生活していこうとする実践意欲を高める。</p>	私たちの道徳

フタハコ乗りとどろこ

六年（ ）組（ ）番

名前（ ）

- 今日の学習で学んだことを書きましよう。

Blank writing area with horizontal lines and a small illustration of a classroom at the bottom right.

- 学習の振り返り よくできた◎ だいたい○ もう少し△

☆自分の思いや考えを表現することができた（ ）

☆友達の思いを受け入れ、考えることができた（ ）

経験調査アンケート
結果の表

まわりの人と意見が違って困ったとき、どんな心が大切だろう

アラクコ乗りとピエロ

○カーテンのすき間からサムを見上げているピエロ

カーテンのすき
間からサムを見
上げているピエ
ロの絵

あれほど言ったのに。
自分ばかり目立って。
くやしいなあ。
お前がスターじゃないんだぞ。

○演技を終えたひかえ室のサム

ひかえ室のサムの絵

サーカスを盛り上げた
め、精一杯の演技をした
ぞ。
団員たちの態度は何だ。
演技には自信があるん
だ。
サーカスを盛り上げる
ぞ。

変わっていくピエロの心

○ひかえ室の団員たち

団の秩序を乱しやがっ
て。
リーダーはピエロだぞ。
自分のことしか考えて
いない。
サムはずるい。
サムは約束を守らない
なあ。

ひかえ室の団員たちの絵

ピエロはどのような思いで、サムとみんなに話し始めたのだろうか。

部屋のかたすみの
ピエロの絵

サムは自分勝手だが、疲れ果てるほどがんばったんだな。
おれは自分の考えにこだわっていた。
サムを見て、サーカスを盛り上げるためには、自分本位で
はだめだとわかつて欲しい。
サムと力を合わせたい。

○夜ふけまで話しこむサムとピエロ



自分中心でごめんな。
二人の芸を工夫して、
新しい見せ場を作っ
て盛り上げよう。

今日の学習で学んだこと

中 学 校 編

ポイント：問題解決的な学習を取り入れた授業の展開

第1学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時 場所 1年 組教室

指導者 ○○ ○○

1 主題名 家族の絆を深める 【 C-14 家族愛，家庭生活の充実 】

資料名 「一冊のノート」(「私たちの道徳 中学校」文部科学省)

2 主題について

(1) 人間は、過去から受け継がれてきた生命の流れの中で生きている。今ここに自分が在るのは、祖父母から父母へ、そして自分へと、生命がかけがえのない深い愛情によって代々育まれてきたからに他ならない。家族とは愛情で結ばれた共同体であり、人とのつながりの出発点である。

しかし、今日、家庭を取り巻く状況は様々であり、その姿は一様でない。また、中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする意欲が高まってくる。そのため、父母や祖父母のちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分のすべてを否定するかのよう思えて、反抗的となることもある。

そこで、指導に当たっては、まず、父母や祖父母を敬愛する心情をより一層深めたい。そして、家族関係を家族のそれぞれの立場になって考えられるよう、多面的・多角的に捉えることができるような判断力を育てたい。さらに、自分と家族との関わりが人間としての生き方の基礎であることを理解し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする態度を育てたい。

(2) 家族の形態や意識調査による生徒の実態は次のとおりである。(調査対象○人)

家族は好きですか。	・はい(○人)・普通(○人)・いいえ(○人)
家族といる時間は楽しいですか。	・はい(○人)・普通(○人)・いいえ(○人)
家族を大切にしていますか。	・はい(○人)・普通(○人)・いいえ(○人)
家族の一員として何かをがんばっていますか。	・はい(○人)・時々(○人)・いいえ(○人)
家族について思い浮かぶ言葉は何ですか。	*自由記述

本学級の生徒は、核家族(○人)三世帯家族(○人)で核家族世帯が多く、祖父母と同居している家族は少ない。

また、上記の結果のとおり、家族に好意的な生徒は約○割で、残りはあまり好意を感じていない。中学生という反抗的な時期も影響しているものと思われるが、自由記述からは、心のなかでは親に対して感謝の念を抱いている生徒が多いことがうかがえる。

(3) 本資料は、病気（文面から認知症と思われる）を患う祖母とそれを支える家族の日常を描いたものである。

主人公の僕と弟は、これまで身の周りのことをさんざん祖母に頼ってきた。しかし、祖母が病気を患ったことで予期せぬトラブルが多くなり、兄弟で祖母に強くあたることも日常的となった。祖母は悲しい表情をしたり、時には怒りをあらわにしたりすることもあった。僕は我慢できずに父親に相談したが、病気なのでどうにもならないことを知らされた。その後、さらにトラブルは増え続けた。

そんなある日、僕は一冊のノートを見つけた。そこには、祖母のもどかしさや不安などが切々と書き込まれていた。僕や弟の面倒を見るためにも老け込むわけにはいかないとも書かれていた。文字はページをめくるごとに乱れていき、最後の空白のページには、ぼつんとにじんだインクの跡だけがあった。僕はいたたまれなくなって外に出た。庭の片隅で草取りをしていた祖母を見ると、横に並んで草取りを始めた。祖母に声をかけると、祖母はにっこりとうなずいた。

本資料は、一冊のノートに目を通した僕の祖母に対する思いの変化を考えることによって、家族の大切さに気付き、家族の一員としての自覚を深めることができるとともに、家族の絆や家族はかけがえのないものであることを再認識することができる資料である。

(4) 指導にあたっては次の点に留意したい。

① 導入

- ・ 家族に対する生徒の意識調査の結果を一覧表にして提示し、学級としての全体的な傾向を示す。
- ・ 「家族とのよりよいくらし方」について考える課題意識を持たせる。

② 展開前段

道徳的問題を捉える

- ・ 学習活動（1）では、資料の道徳的問題に気付かせ、取り扱う問題を設定する。問題点を自由に発表させていく中から、祖母は病気で仕方がないにもかかわらず、僕が祖母に冷たい点や全く理解しようとしていない点を取り上げる。

道徳的問題を探究する

- ・ 学習活動（2）ではまず、一冊のノートに込められた祖母の苦悩や不安、家族への感謝の気持ちや孫を大切に思う優しい愛情をつかませる。その後、僕はノートを読むまでなぜ祖母の優しさに気付けなかったのか、僕に足りなかったものを考えさせる。自分のことしか考えず、祖母のことを全く考えようとしなかったところに原因があったことをおさえる。

道徳的問題を解決する

- ・ 学習活動（3）の中心発問では、僕はこれからどのような態度で祖母と接すればよいか、また、それはどのような心情からか、を考えさせる。まず学習シートに個人の考えを記入させ、その後、班で話し合わせる。話し合いでは、多様な考えの中から

よりよいものを追究させる。全体的話合いでは、なぜそのような態度で接するのか、態度の裏にある心情を十分に語らせ、家族愛がより深まるような展開を心がける。

③ 展開後段

- ・主人公と同じような状態になっていないか、家族一人一人に対する自分の態度を振り返らせる。自分の良くなかったところ、足りなかったところなどを追究させ、これからどのような態度で接していったらよいかを考えさせる。
- ・生徒の中から数名発表させて、生徒の言葉を借りて、家族の絆やかけがえのなさ、家族のためにがんばろうとする態度の大切さなどをおさえる。

④ 終末の段階

私たちの道徳のP180の詩「家族の一員としての自覚を」を範読し、最後に教師の思いを一言添える。

⑤ 人権尊重の視点から

- ・多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ、一人一人の生徒の実態を把握し十分な配慮を欠かさないようにする。
- ・自分の考えを学習シートに記入したり、みんなの前で発言したりするとき、班や学級において、友達の意見を受け入れる風土づくりに普段から取り組んでおく。
- ・教師は生徒のつぶやきにも耳を傾け、生徒一人一人の存在や価値観を認め、よりよい生き方を目ざし、全員が一体となって学習に取り組む姿勢を大切にしたい。

3 指導計画

	各教科・その他	主な指導内容	体験活動等
事前	○社会「日本列島の誕生と縄文文化」 ○家庭科「家庭と家族関係」	・縄文人のくらしを通して、今も昔も人々の家族を思う気持ちは変わらず、家族愛は不変であることを理解する。 ・家庭や家族の基本的な機能を知り、家庭や家族の大切さについて考える。 ・家族の一員として、中学生の自分にできることを考える。 ・家族との関わりやこれからの家庭生活、家族関係をよりよくする方法を考える。	教育キャンプ *電気もガスもない状況で仲間と自炊するキャンプ生活を体験して、親や家庭生活のありがたさを再認識する。
本時	<ul style="list-style-type: none"> ・主題名 家族の絆を深める ・資料名 「一冊のノート」 出典「中学校 私たちの道徳」文部科学省 ・中心価値 C-14 家族愛，家庭生活の充実 		
事後	○国語「大人になれなかった弟たちに」	・戦争という特殊な状況下ではあるが、兄が弟を思う気持ちや家族を必死に守ろうとする母の思いは、いつの時代も不変であることを理解する。	

4 本時の学習

(1) ねらい 一冊のノートを目にした主人公の祖母に対する思いの変化を通して、家族の絆や家族はかけがえのないものであると気づき、充実した家庭生活を築こうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の注意点	備考
導入 5分	1 学習課題を知る。	自分にとって、家族とはどんなものだろう。	○アンケート結果より学級の傾向を把握させ、家族とのよりよいくらし方について考えようとする意欲を高める。	アンケート結果
展開 前段 30分	2 資料を読んで話し合う。 (1) 資料の道徳的問題に気づき、課題を設定する。 (2) 僕に足りなかったものを考える。 (3) 僕はこれからどのような態度で祖母と接すればいいかを考える。 個人 ↓ 班 ↓ 一斉	<p>道徳的問題を捉える</p> <p>資料を読んで、どこに問題があると思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖母に冷たいところ。 ・祖母を理解しようとしていないところ。 <p>道徳的問題を探究する</p> <p>僕はなぜ、ノートを読むまで祖母の優しさに気づけなかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことしか考えていなかったから。 ・祖母に対する思いやりがなかったから。 <p>道徳的問題を解決する</p> <p>僕はこれから、おばあちゃんにどのような態度(行動)で接すればいいでしょう。また、それはどんな心情からですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手伝う。感謝の気持ちを行動で示したいから。 ・優しく声をかける。いつも笑顔でいてほしいから。 	<p>○教師が範読する。</p> <p>○ノートを読むまでは、病気で仕方ないにもかかわらず、祖母の言動に腹を立て、とても冷たく接していた点が問題であることをおさえる。</p> <p>○ノートから、祖母の孫への愛情をつかませる。</p> <p>○自分のことしか考えていなかった点をおさえる。</p> <p>○学習シートに記入後、班で話し合わせる。話し合いでは、多様な考えの中からよりよいものを追求させる。</p> <p>○全体の話し合いでは、なぜそのような態度で接するのか、態度の裏にある心情を十分に語らせ、家族愛がより深まるように留意する。</p>	学習シート
展開 後段 10分	3 これまでの自分やこれからの自分を見つめる。	家族に対するこれまでの態度を振り返り、これからの態度を考えよう。	○主人公と同じ状態になっていないか振り返らせ、これからどのような態度で接していったらよいかを考えさせる。	学習シート
終末 5分	4 「私たちの道徳」の詩を読む。	「家族の一員としての自覚を」を読みます。	○「私たちの道徳」P180の詩を、気持ちを込めて範読し、最後に教師の思いを一言添える。	私達の道徳

資料名「一冊のノート」

1年()組()号 名前()

僕はこれから、おばあちゃんにどのような態度（行動）で接すればいいでしょう。また、それはどんな心情からですか。



《態度》

《心情》

◎家族に対するこれまでの態度（行動）を振り返り、家族とのよりよいくらし方について考えよう。

一冊のノート

家族に関する アンケート結果



一冊のノート

祖母の孫への愛情がいつばい

- なぜ、僕は気付けなかったのか？
- ・自分のことしか考えていなかった
 - ・祖母に対する思いやりがなかった

僕はこれから、おばあちゃんにどのような
態度（行動）で接すればいいでしょう。
また、それはどんな心情からですか。

態度

- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○

心情

- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○

ポイント：考え、議論する場の設定 心情の変化の可視化

第1学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時 場所 年 組教室

指導者 ○○ ○○

1 主題名 法やきまりの大切さについて考える【C-10 遵法精神】

資料名 「二通の手紙」(「中学校 私たちの道徳」文部科学省)

2 主題について

- (1) 法やきまりは、社会に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものである。社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるのであって、自分の欲望のままに生活することを制限するものとして法を捉え、仕方なく法に従うのは、進んで守るということではない。一方で、生徒は法やきまりによって保障される個人の権利は強く主張するものの、自分の果たすべき義務を果たそうとしない場面も少なくない。

また、実生活の中でも自分に都合よく解釈したり、相手によかれと思ってやったりしたことでも、結果的に法やきまりを破ってしまい、社会の秩序や安全に影響を与えてしまうこともよく見られる。

中学生の時期に、秩序と規律ある社会を実現するためには法やきまりを遵守して自らの義務を果たさなければならないのだと理解させることは、望ましい生活態度を育てていく上で重要である。

- (2) 1年生の段階では、法やきまりについて「ルールだから守る」と他律的に捉えている生徒も多い。

また、法やきまりが自分たちを拘束すると感じている面もある一方で、他者のルール違反や不当な権利主張などには批判的な態度を示すこともある。目の前の相手の心情に思いを巡らせ、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲や態度を育てる必要がある。

事前アンケートの結果は以下のとおりである。(○月○日実施、n=○○)

- ① 社会や学校にきまりは必要だと思いますか。はい○人、いいえ△人
- ② きまりを破ったことがありますか。 はい○人、いいえ△人
- ③ きまりを守らないといけないのはなぜだと思いますか。
 - ・罰則があるから。 ・周りの人に迷惑をかけるから。
 - ・みんなが幸せに生活できるから。

- (3) 本資料は、主人公(元さん)の行動について、全く違う視点から書かれた二通の手紙をもとに葛藤させる読み物である。元さんが、規則を知っていながら幼い姉弟に同情し、入園させたことから大騒ぎになってしまい、その結果、懲戒処分を受けてしまう。きまりに反して入園させてしまう元さんの行動は、感情的に十分共感できるものであり、懲戒処分に対する疑問や反発の気持ちも湧いてくる。しかし、職員としての判断を問う場面は、生徒にとってモラルジレンマを引き起こすものであると考える。法やきまりの意義について深く考えることのできる資料である。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

①導入の段階

導入資料を用いて、身近に多くのきまりがあることを意識付けたい。また、その意義について学習前段階での自分の認識を記録させておき、学習後と比較できるようにしておきたい。

ポイント1

②展開前段の段階

- ・資料を区切って読ませることにより、「自分だったらどうするか」という問題解決的な学習を心掛けたい。
- ・佐々木さんが入園させない決心をしたことについて話し合わせることで、自分の考えの深化・変化を意識させたい。

③展開後段の段階

- ・再度、導入と同じ発問をすることで、法やきまりを守ることについての考えの変化や整理をさせたい。

ポイント2

④終末の段階

- ・なかなか守れなかったり、つい破りそうになったりする身近な例について生徒それぞれに考えさせ、これから守っていきたい理由も含めて具体的に宣言させたい。そのことによって、道徳的実践意欲を高めたい。
- ・その際、学習前の自分や学習途中の自分の考えの変化についても意識させたい。そして、きまりを守ることが秩序と規律のある社会の実現につながることを確認させたい。

⑤人権尊重の視点から

- ・グループでの話し合い場面も取り入れ、一人一人の意見を尊重して、互いに認め合う学習を展開したい。また、他者の発言から得られた新たな考えや変化した自分の考えを色ペンで記入する場を設定することで、自信を持ってワークシートに記入できる雰囲気大切にしたい。

ポイント3

⑥ワークシートの記入について

- ・ワークシート記入にあたっては、消しゴムを使わず、新たな考えは青ペンで書き加えることで、心情の変化が見えるようにする。

3 指導計画

	各教科・その他	主な指導内容	体験活動等
事前	学活 「情報機器について〇〇 中ルール」	・情報機器の使用について、生徒会を中心として生徒自らがルールを作成する。	生徒集会
本時	・主題名 法やきまりの大切さについて考える ・資料名 「二通の手紙」(「中学校 私たちの道徳」文部科学省) ・中心価値 C-(10) 遵法精神		
事後	学活 「1年生のまとめと2年生への抱負」	・きまりについて自分がどう行動しているか振り返らせる。	チェックシート

4 本時の学習

(1) ねらい 登場人物それぞれの判断理由を考える活動を通して、法やきまりの意義を理解し、秩序と規律のある社会を実現しようとする道徳的实践意欲を育てる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 ☆評価	備考
導入 5分	1 きまりやルールは何のためにあるのか考える。	<p>ルールやきまりは何のためにあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆が安心して暮らすため。 ・事件・事故を防ぐため。 ・生活していくのに必要だから。 	<p>○「私たちの道徳」P.135を見ていろいろなきまりがあることを確認させる。</p> <p>○法やきまりの意義について、学習前段階での自分たちの認識を押さえさせる。</p>	P.135 アンケート結果を活用する。
展開 前段 25分	2 「二通の手紙」を読んで話し合う。 (1)元さんの判断について考える。 (2)母親からの手紙の場面まで読んで、考えさせる。 (3)最後まで読み、きまりを守る意義について再度考えさせる。	<p>自分が元さんだったら、入園させますか、させませんか。その理由は何ですか。</p> <p>〈させる〉 ・姉弟の気持ちを大切にした。 ・特別な日だった。 ・元さんの家庭状況が結びついた。 〈させない〉 ・危険だ。 ・きまりは守るべき。 ・特別な日だからこそ事故にあったらいけない。</p> <p>母親からの手紙を読んで、あなたはどのように思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生の思い出になったので、入れてよかった。 ・母親から感謝されてうれしい。 <p>佐々木さんは入園させない決心をしているがどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の職員にも迷惑をかけたから。 ・ほかの入園者に対して不公平になるから。 ・万が一のことが起きないように入園者を守る義務があるから。 ・自ら職を辞した元さんの思いを十分に理解したから。 	<p>○P.140—P.142,4行目でいったん切る。</p> <p>○入園させる方とさせない方の両方について、判断の理由付けをさせながらそれぞれ考えさせる。</p> <p>○周囲と意見を交わさせる中で新たな価値に気付かせる。</p> <p>☆両方の立場とその根拠を述べることができたか。</p> <p>○母親からの手紙の部分までを読ませ、子供の考えを揺さぶる。</p> <p>○まず、自分の考えをワークシートに書かせた後、班で話し合わせる。</p> <p>○周囲と意見を交わす中で自分の考えに変化があったり新しい価値が加わったりしたら青ペンで記入させる。</p> <p>○入園させるか否か再度問い、その理由を尋ねる。</p>	P.140～ P.142,1.4 P.142,1.5～ P.143 P.144 ワークシート 青ペン
展開 後段 10分	3 資料を通して学んだことをもとに、自分を見つめる。	<p>ルールやきまりは何のためにあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が安心して暮らすため。 ・その場の感情に流されて、問題を起こさないようにするため。 	<p>○導入で同じ発問をしたときよりも、考えが深まるように促す。</p> <p>○どんな理由があろうともきまりは守らなければならないことを押さえる。</p>	
終末 10分	4 法やきまりを守ることの大切さを確認する。	<p>ルールやきまりについて、この学習で考えたこと、感じたことをまとめてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守ることで自分や社会の成長につながるきまりもある。 ・ルールやきまりには必ず理由があるので、勝手な解釈で破ったりしない。 ・最悪の事態を想定しているきまりもあるので、自分や周囲の人たちのためにも守ろうと思った。 	<p>○「私たちの道徳」のP.146を見て、法やきまりの意義を確認させる。</p> <p>○ワークシートに記入させる。</p> <p>☆きまりを守ろうとする具体的な決意を述べることができたか。</p>	P.146

二通の手紙

1年 組 号 氏名

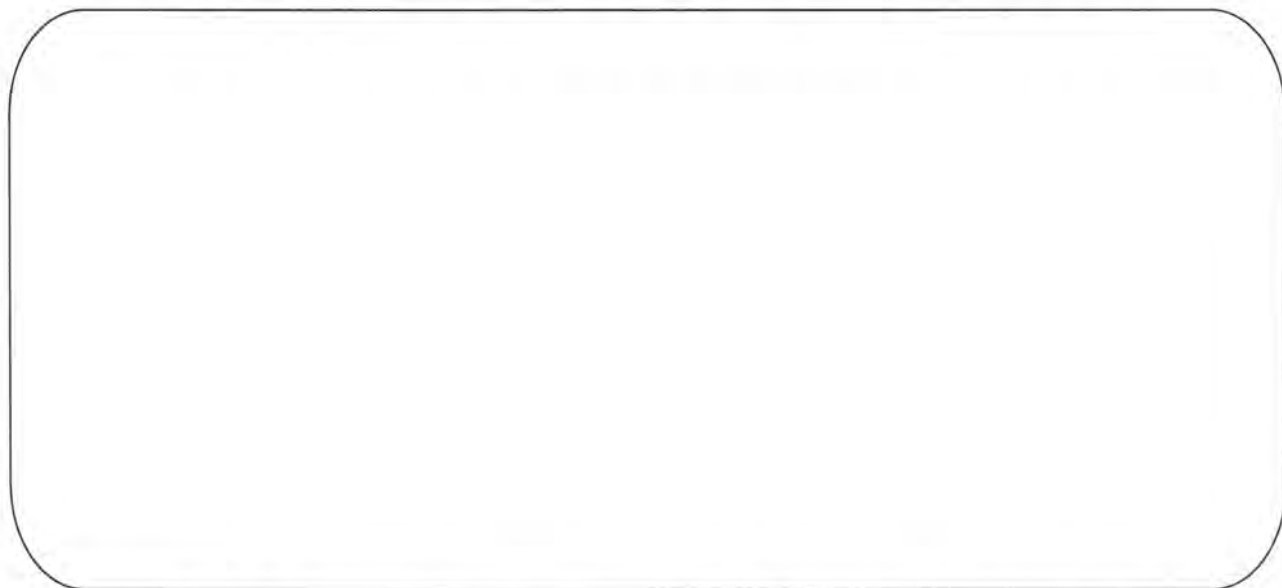
1. 自分が元さんだったら、入園させますか、させませんか。その理由は何ですか。

入園させる

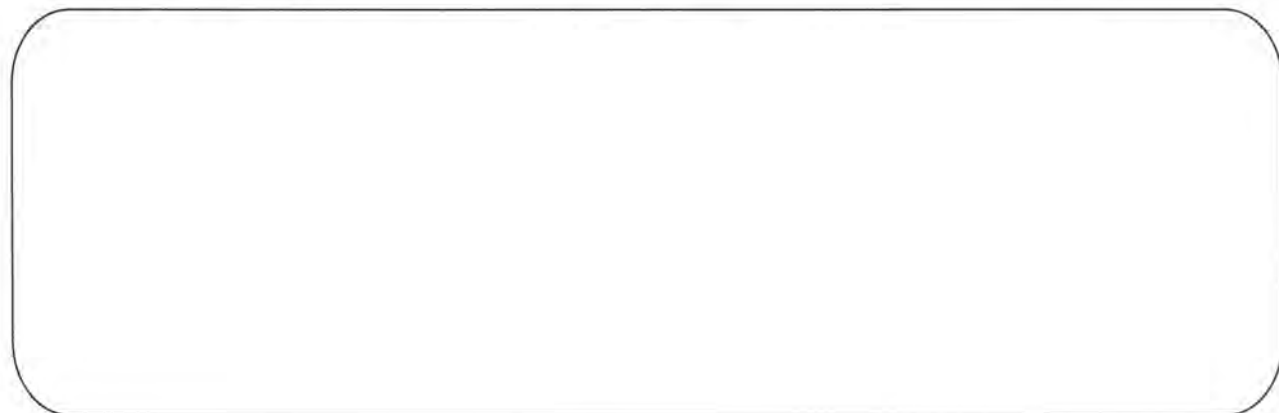
入園させない



2. 佐々木さんは入園させない決心をしているが、どうしてでしょうか。



3. ルールやきまりについて、この学習で考えたこと、感じたことをまとめてみましょう。



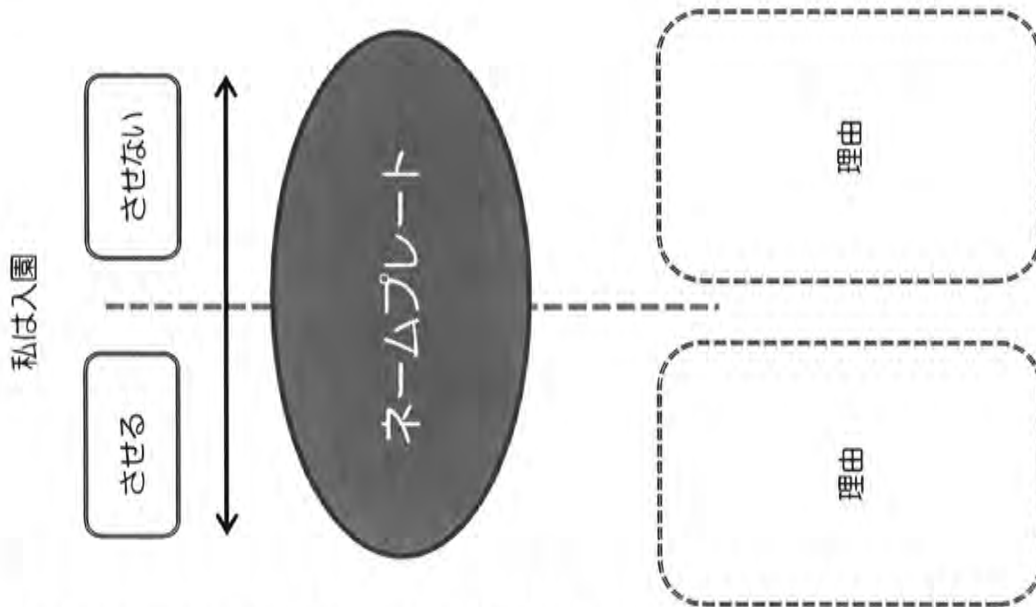
一通の手紙

1. ルールやきまりは何のためにあるのでしょうか。

アンケート結果を掲示する。

(展開後段「何のためにあるのでしょうか。」のために空けておく。)

2. 自分が元さんだったら、入園させますか。その理由は？



3. 母からの手紙を読んで、あなたはどのように思いましたか。



- 一生の思い出になったので、入れてよかった。
- 母親から感謝されてうれしい。

4. 佐々木さんは入園させない決心をしているが、どうしてでしょうか。

- 他の職員にも迷惑をかけたから。
- ほかの入園者に対して不公平になるから。
- 万が一のことが起きないように入園者を守る義務があるから。
- 自ら職を辞した元さんの思いを十分に理解したから。

5. 学んだことをまとめましょう。

道徳アンケート

1年 組 号 氏名

1. 社会や学校にきまりは必要だと思いますか。

必要である ・ 必要ではない
(理由)

2. きまりを破ったことはありますか。

理由

3. きまりを守らないといけないのはなぜだと思いますか。

**ポイント：いじめを乗り越える仲間作りのための指導計画
考え、議論する授業展開**

第2学年〇組 道徳学習指導案

平成〇年〇月〇日(〇) 第〇校時 場所〇年〇組教室

指導者 〇〇〇〇

1 主題名 いじめを許さぬ心【C-11 公正・公平・社会正義】

資料名 「卒業文集最後の二行」(「中学校 私たちの道徳」文部科学省)

2 主題について

- (1) 思春期を迎えたころの中学生は、自己中心的な考え方や偏った見方をしてしまい、他者に対して不公平な態度をとる場合がある。また、周囲で不公平があっても、多数の意見に同調したり、傍観したりするだけで、制止することができないこともある。そうした自分の弱さに向き合い、同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意思を強く持ったり、学校や関係機関に助けを求めたりすることに躊躇しないなど、いじめを許さない道徳的心情を学ぶことが大切である。
- (2) 本主題・資料に関する実態は以下のとおりである。(調査対象〇人)

- ① いじめとはどういうものだと思いますか。
人間としてやってはいけないこと 自分より下を見つけようとして強がること
差別 無視 孤立させる 暴力 暴言 人の体や心を傷つける行為
- ② いじめがおきた場合、あなたは今までどのような行動をとりましたか。
・先生に相談した〇人 ・やめさせた〇人 ・相談にのった〇人
・何もしなかった〇人 ・見てみぬふりをした〇人
- ③ どうしてその行動をとりましたか。
・悪化しないように ・とてもつらそうだったから
・勇気がなかった ・まきこまれたくなかった

以上のことから、生徒たちは、いじめとはどういうものか理解している。しかし、実際には解決のための行動をとれた生徒が少ないことがわかった。

- (3) 本資料は、いじめの加害者の心情に沿った授業ができるという点に特徴がある。30年あまり前小学生だった筆者が同級生のT子さんをいじめたことを振り返り、自分を責めながら生きてきたことを語っている。また、そのいじめがいかに不条理で悪質なものが分かりやすく描かれ、小学生であった筆者の「いじめる側の理論」が見えてくる。この資料を通して生徒たちは、いじめの残酷さ、非情さを感じると同時に、いじめを行う人間の心の弱さにも気付くだろう。さらに、いじめられたT子さんの苦しみに対して、強く共感できると思われる。
- (4) 指導にあたっては、次の5点に留意する。
- ① 導入の段階
・いじめとはどういうものかそれぞれの考えを出させ、本時の学習への意識付けを行い、真剣に学習に取り組む気持ちをもたせる。
- ② 展開前段の段階
・T子さんをいじめる筆者の思いを想像し、このような考えがいじめを助長する

ことを押さえる。

- ・卒業文集を読んだ筆者の気づきから、価値の追求を図る。

ポイント

- ・学級の中でいじめがあったらどのような行動がとれるのか、心情直線上に表すことで自分の考えをはっきりさせる。
- ・他の友達の意見と自分の考えを比べ、議論しながら考えを深めていく。
- ・不安がなくなるクラスとはどのようなクラスなのか、みんなで気持ちを出し合う。

③ 展開後段の段階

- ・展開前段で考えたことや友達の意見をふまえて、今後自分がどのように行動していこうと思うのか、じっくり自分と向き合わせる。

④ 終末の段階

- ・新聞記事を読み、いじめは他人事ではなく、やはりいじめは許されない事であるということを押さえる。

⑤ 人権教育の視点から

- ・友達の意見をしっかりと聞いた、自分の意見をしっかりと聞いてもらったという実感を大切にする。そのために共感的に聞き合う態度を自分や班・クラス全体がとれるように意識させる。

ポイント

3 指導計画

主題名「いじめを許さぬ心」

	各教科・その他	主な指導内容	体験活動等
1 時 間 目	(本時) ・主題名 いじめを許さぬ心 ・資料名 「卒業文集最後の二行」(私たちの道徳) ・中心価値 C・11 公正・公平・社会正義		
2 時 間 目	道徳 資料名 「寛と赫雄」(熊本の心) B・9 寛容な心	・いじめをする人を変えるにはどうすればよいのかを先人の姿から学び、より良い関係を築こうとする心情を育てる。	
3 時 間 目	学級活動 「クラスの5か条を作ろう」	・これまでの学びを振り返り、クラスでいじめが起こらないようにするためにはどうすればよいのか話し合う。	合唱コンクール

4 本時の学習

- (1) ねらい ○筆者の後悔を通して、いじめの悲惨さ、愚かさに気づき、いじめの場面で自分は行動できるのか自分を見つめることから、いじめを許さない心を培う。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点☆評価	備考
導入 5分	1 アンケートの結果を知り、学習のめあてをつかむ。	いじめとはどういうものですか。 ・悪口（罵声・ののしり） ・仲間はずれ・暴力・嫌がらせ	○いじめについて学習することを知らせる。 ○自分たちが考える、いじめについての認識をアンケートから確認する。	アンケート表
		学習のめあて：いじめは許されるか		
展開 前段 20分	2 資料「卒業文集最後の二行」を読んで話し合う。 (1)筆者の思い (2)筆者の後悔	筆者が、T子さんにひどい仕打ちをし続けたのは、なぜだと思いますか。 ・自分の心の気分を晴らすため。 ・おもしろいから。 ・友達と盛り上がれておもしろい。 卒業文集最後の二行から筆者は、何に気付いたと思いますか。 ・自分の行為が、こんなにも人を苦しめていたんだ。 ・何と恥ずかしい、愚かなことをしていたのだろう。 ・いじめをうけたT子さんの心の痛みや苦しみに気付かなかった。 ・人の痛みも分からず、思いやる心が足りなかったのだ。	○筆者の思いを想像することで、誰でもいじめる側に立ってしまう心境をつかませる。 ○このような考えが、いじめを助長することを押さえる。 ○筆者の気づきから、価値の追求を図る。 ○自分の行為が、人を苦しめ、悲しませているということ、絶対にしてはいけない行為であることを押さえる。 ○T子さんの苦しみを感じ取らせながら、いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめの行為と同様に許されない行為であることを自覚させる。	

	<p>(3)主人公に自分を置き換えて考える。</p>	<p>学級の中でいじめがあったとき、あなたは止めることができますか。</p> <p>A できる B できない</p> <p>ポイント【考え議論する場】</p> <p>○自分の立場をはっきりさせ、自分だったらどうするかという考えを持ち、話し合いに参加させる。</p> <p>○理由付けをおこない、いじめに対する自分の考えをはっきりさせる。</p>	<p>○ネームプレートを心情直線上に貼らせ、今の自分やクラスの状態を可視化する。</p> <p>○いじめが許させないと分かってはいても、すぐには行動できないのはなぜか、自分と向き合わせる。</p> <p>○行動できないのはなぜか、どんなクラスだと行動できるのか話し合う。</p>	<p>ネームプレート学習シート</p>
<p>展開後段 20分</p>	<p>3 学習のまとめと振り返りを行う。</p>	<p>今日の学習で学んだことはなんですか。また、今までいじめに対して自分はどうだったかを見つめて書きましょう。</p>	<p>○傍観している自分もいじめていることに気づき、いじめを防ぐためにどのようにすればよいか、一人一人にしっかり考えさせる。</p> <p>○互いの意見を交流し、楽しいクラス、思いやりのあるクラスをめざせるようにしたい。</p> <p>☆自分のこととして考え、自分を見つめることができたか。</p>	<p>学習シート</p>
<p>終末 5分</p>	<p>4 新聞記事を読み、いじめの悲惨さを訴える。</p>	<p>最近起こったいじめについての新聞報道を読みます。</p>	<p>○いじめによる自殺や暴行の事件が起きており、決して他人事ではないことを伝える。</p>	<p>新聞記事</p>

卒業文集最後の二行

年 組 氏名 ()

- 1 学級の中でいじめがあったとき、あなたは止めることができますか。
下の心情直線に○をつけ、理由を書きましょう。



- 2 今日の学習で学んだことは何ですか。
また、今までいじめに対して自分はどうだったかを見つめて書きましょう。

いじめとは

- ・悪口
- ・仲間はずれ
- ・暴力
- ・無視

めあて

いじめは許されるのか

卒業文集最後の二行

絵

気付いたこと

- 気分を晴らすため。
- おもしろい。
- 盛り上がる。

- 自分の行為がこんなにも人を苦しめていた。
- 許されるものではない。
- 取り返しがつかない。

学級の中でいじめがあったとき、あなたなら止めることができますか。

A

止めないといじめはなくなりません。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

一人だとできないけど、友だちとなら行動できる。

不安

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

自分が次にいじめられるかもしれないから。



不安がなくなるクラスにするには

するには

B

ポイント:初発の感想の疑問から学習課題を設定した主体的な学習の展開

第2学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時 場所 年 組教室

指導者〇〇 〇〇

1 主題名 自分の弱さと向き合う 【D-22 よりよく生きる喜び】

資料名「二人の弟子」(「私たちの道徳 中学校」文部科学省)

2 主題について

- (1) 人間は決して完全なものではない。ありのままの人間は弱さや醜さを持っているが、それを乗り越えていこうとする強さや気高さも併せもっている。様々な誘惑に負け、易きに流れることがあるが、良心の責めと闘いながら、強く、気高く生きようとするのも人間である。私たちは、己の弱さや醜さと向き合い、それを乗り越えようとするとき、人間としての誇りや深い人間愛を育み、人間として生きることにより深い喜びを得ることができるのである。

中学生の時期は、よりよい生き方や理想の生き方について自分なりの考えを持ち始め、己の人生を切り拓こうとする意欲が芽生えてくる。しかし、未熟でなかなか自分に自信が持てないでいるために、ときに劣等感にさいなまされたり、人を妬んだり、うらやましがったりすることもある。

そこで、人は誰しも人間らしい良さを持っていることに気付き、決して人間に絶望することなく、自分に対しても、人に対しても人間としての良さを見いだしていこうとする前向きな姿勢や態度を育てることが大切である。

- (2) 本学級の生徒の実態は次の通りである。

本学級の生徒〇人は、道徳の授業に意欲的である。自分の立場や考えを主張できる生徒は多いが、他の人と立場や考えが違っていると、自信をなくして自分の主張をすぐに取り下げたり変えたりする生徒が少なくない。一方で、自分の主張に固執することに終始して、他の人の考えを聞いたり自分の主張を見直したりできない生徒もいる。

事前の意識調査の結果では、「自分の考えや意見を大切に、それを主張することができていますか。」という問いに対して、〇人(△%)が「できている。」と答えている。次に、「自分の考えや意見に反論されたときはどう反応しますか。」という問いに対しては、〇人(△%)は「反論の理由を聞いて自分の主張をもう一度検討する。」と答え、〇人(△%)は「自分の考えや意見に自信が持たなくなると主張を変える。」と答え、〇人(△%)は「自分の考えや意見を変えることはない。」と答えている。また、「自分の心の弱さや強さに気付いていますか。」という問いに対して、「弱さ」に対しては〇人(△%)が「気付いている。」と答えているが、「強さ」に対しては〇人(△%)しか「気付いている。」と答えていない。

以上のことから、自分の立場や考えが主張できない生徒がいることや、反論されると議論できない生徒がいることがわかる。また、自分の心の弱さを意識するものの、弱さを克服しようとする強い心があることには気付かないでいる生徒が多くいる実態を捉えることができる。

- (3) 本資料は、意志の弱さから邪念に迷って修行を投げ出した道信と、真面目で潔癖

であるがゆえに寺に舞い戻った旧友を受け入れられない智行が、それぞれ自己の心の弱さや醜さに気付いてそれを克服していこうとする姿が描かれている。この物語では、フキノトウと白百合という二つの花が、二人が求めるべき心や生き方の象徴として現れている。フキノトウは「苦しみに耐え、乗り越えて力強く生きよ」と励まし、白百合は「己の心を育て、美しく気高く生きよ」と呼びかけているように感じる。自然からの励ましや呼びかけを心に響かせた二人は、それぞれの心の弱さや醜さと向き合い、それを乗り越えて、力強く美しく生きようと強く決心するのである。

性格や生き方が対照的な二人が、それぞれの弱さや醜さに気づき、それを克服しようとする姿を捉え、智行、道信のいずれかと自己を重ねながら、その心境や動機を探っていくことで、深くねらいに迫ることのできる資料である。

(4) 指導にあたっては次の5点に留意する。

① 導入の段階

- ・いろいろな場面で、自分の弱い心が出た場面や、それを克服しようと努力したり、乗り越えたりした経験を想起し、本時の学習のねらいへの意識付け、方向付けを行う。

② 展開前段の段階

- ・初発の感想での疑問から生まれる学習課題「なぜ、上人は道心を受け入れたのだろう。」を設定し、女性に捨てられ、盗人に身を落とし、死まで覚悟した道心の弱さや、道心をどうしても許せず受け入れることのできない智行の心の弱さや醜さに気づきながら、価値を追求させる。

ポイント

- ・道信を受け入れた上人の、「人はみな自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」という言葉から、智行が自分の心と向き合って気付くべき自分の心の弱さや醜さとは何かについて話し合いたい。また、たくさんのことを経験して自分の弱さを知った道信が、それを乗り越えて強く気高く生きようとしている姿から、決して人間に絶望することなく、自分に対しても人に対しても人間としての良さを見いだしていく姿勢や態度の大切さに気付かせたい。

③ 展開後段の段階

- ・これまでの自分を振り返り、道信または智行と自己を重ねながら自分を見つめさせたい。そこで、人間には誰にも弱さや醜さがあることを認めながら、それを克服して強く気高く生きようとする強い願いや力があることを自覚させたい。どんな困難な状況においても自分を奮い立たせ、自分を見失うことなく、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を目指す生き方をしたいという生徒の願いを膨らませたい。

④ 終末の段階

- ・「私たちの道徳」のP121を読んで、だれの心にも弱さや醜さと、それを乗り越えられる強さや気高さが同居していることを知り、苦しみや悩みに打ちかって人間と

して生きることに喜びを見いだす態度や意欲を高めたい。

⑤ 人権尊重の視点から

- ・話し合う、書くといった言語活動を各段階に取り入れ、互いに思いや考えを表現する場を確保することによって、一人一人を認め、ほめ、励ます学習を展開したい。
- ・弱さや醜さに打ちかつ人間の心の強さや美しさに気付くことによって、人間のすばらしさを自覚し、人間として誇りある生き方をしたいという願いをふくらませたい。

3 指導計画

	各教科・その他	主な指導内容	体験活動等
事前	学級活動・道徳 「人権学習」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にある差別やいじめについて話し合う中で、自分の心を見つめ、自分の心の弱さや醜さに気付くようにする。 ・ 心の弱さや醜さに打ちかち、誇りある生き方を求めるようにする。 	人権集会 「〇年〇組の人権宣言」など。
本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名 自分の弱さと向き合う ・ 資料名 「二人の弟子」(文部科学省) ・ 中心価値 D-22 弱さ・醜さの克服 		
事後	総合的な学習の時間 「合唱コンクールを成功させよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱コンクールに向けて、各自の苦手なところや得意なところを理解し合い、その克服に向けて励まし合って、より美しい合唱を目指すようにする。 	合唱コンクール
	総合的な学習の時間 「学習発表会で人権についての学びを確かめよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権についての学びをステージや掲示発表によって確かめ、人間として誇りのある生き方を求めるようにする。 	学習発表会

4 本時の学習

(1) ねらい 自己の弱さや醜さを克服しようとする登場人物の姿にふれることを通して、人間として誇りある生き方に近づこうとする道徳的態度を育てる。

(2) 展開

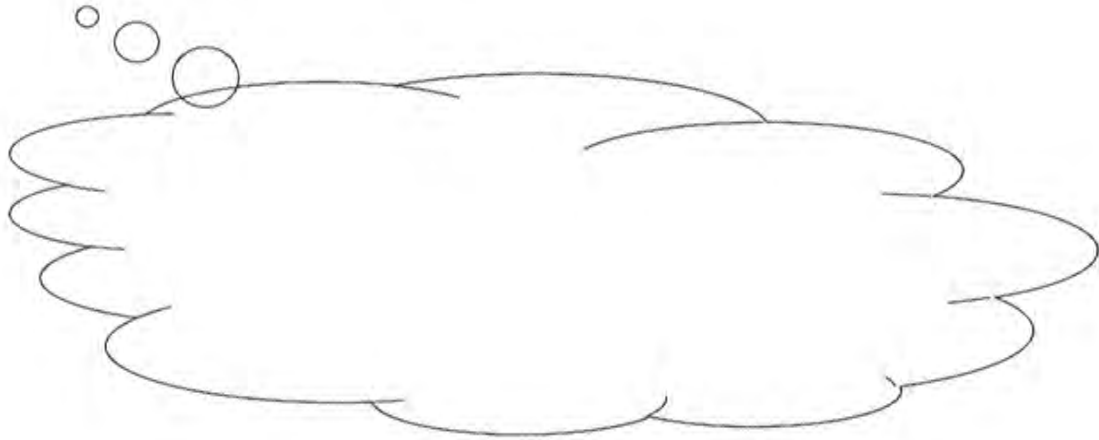
過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 ☆評価	備考
導入 5分	1 自分の心の弱さや強さについて振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の弱い心が出たり、それを克服しようとして努力したりしたことを振り返ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題忘れをごまかした。 ・友達だけ選手に選ばれ悔しかったが「良かったね。」と言えた。 	<p>○だれの心にも弱さと強さが同居していることに気付かせ、価値への方向付けをする。</p>	
展開 前段 25分	2 資料「二人の弟子」を読んで話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料を読んで、どんなことが一番心に残ったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ上人は道信を許したのだろうか。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【初発の感想の疑問から学習課題を設定する】(ポイント)</p> <p>○生徒の疑問を生かすことで、主体的に課題を追求していく。</p> </div>	心の色 カード ワーク シート
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>学習課題：なぜ上人は道信を受け入れたのか。</p> </div>			
	<p>(1) 道信の心の弱さについて考える。</p> <p>(2) 道信に対する自分の立場を考える。</p> <p>(3) 「人は皆自分自身と向き合って生きていかねばならない」という言葉の意味を考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">道信の心の弱さとは、どんなことだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな人のことが忘れられず修行を捨ててしまったこと。 ・盗人になったり死のうとしたりしたこと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分ならば道信を許せるだろうか。</div> <p>【許せる】自分の心の弱さに気がやり直そうとしているから。 【許せない】裏切りが簡単に許されると思わせたくないから。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「人は皆自分自身と向き合って生きていかねばならない」と言った上人は、智行にどんなことに気付いてほしいのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は友の苦しみに気付かず、非難するだけであったこと。 ・自分の心にも弱さや醜さがあるということ。 	<p>○意志の弱さから修行を投げ出し、何もかもうまくいかず、死のうとしたことを押さえない。</p> <p>☆ペアで考えを交流しているか。</p> <p>○多様な価値にふれることによって、道信や智行を多面的、多角的に捉える視点を持たせたい。</p> <p>○道信を許せない智行の気持ちは、誰の心にもある狭い自己愛、自己の正当化であることに気付かせたい。</p> <p>○道信を非難することで自分の正しさを主張している自分の心の狭さに気付いた智行の心を、智行の涙を通して考えさせたい。</p> <p>☆小グループで考えを交流しているか。</p>	ワーク シート
展開 後段 15分	3 自分を深く見つめて、よりよい生き方をさぐる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分には弱い心と、それを乗り越えようとする強い心があることに気付こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分より下手だった人が上手になると悔しい。それは自分に向上心があるからだ気付いた。 ・相手によって態度を変えている自分が醜いと思うのは、美しい心を求めているからだ。 	<p>○自分を見つめやすくするために書く活動を取り入れる。</p> <p>○弱い心に気付くのは、よりよく生きたいと願う心があることに気付かせたい。</p> <p>☆自分自身を「弱い心」や「強い心」という視点から振り返っているか。</p>	ワーク シート
終末 5分	4 「私たちの道徳」を読む。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「私たちの道徳」P121を読もう。</div>	<p>○「私たちの道徳」を読むことで実践への励ましとしたい。</p>	「私 たちの 道徳」

ワークシート（月日） 年 組 番氏名（ ）

1 資料「二人の弟子」を読んで、話し合しましょう。

① 資料を読んで、どんなことが一番心に残りましたか。
簡単に書きましょう。

② 「智行よ、人はみな自分自身と向き合って生きていかなくてはならないのだ。」
と行った上人は、智行にどんなことに気付いてほしいのでしょうか。



2 自分の中には、どんな弱い心と、それを乗り越えようとするどんな強い心があるでしょう。♥️弱い心 ♥️強い心

♥️

♥️

【学習の振り返り Aとても Bいたい Cあまり D全く】

資料は分かりやすかったか。() 自分の考えは書けたか。()

自分の考えは話せたか。() 友や先生の話は聞けたか。()

「二人の弟子」

資料を読んで一番心に残ったこと

- ・なぜ上人は道信を受け入れたのだろう。
- ・一生懸命に修行していた智行は、逃げ出した道信のことを受け入れることができなかつたと思う。
- ・智行はなぜ、涙を流したのだろう。

学習課題「なぜ上人は道信を受け入れたのだろう。」

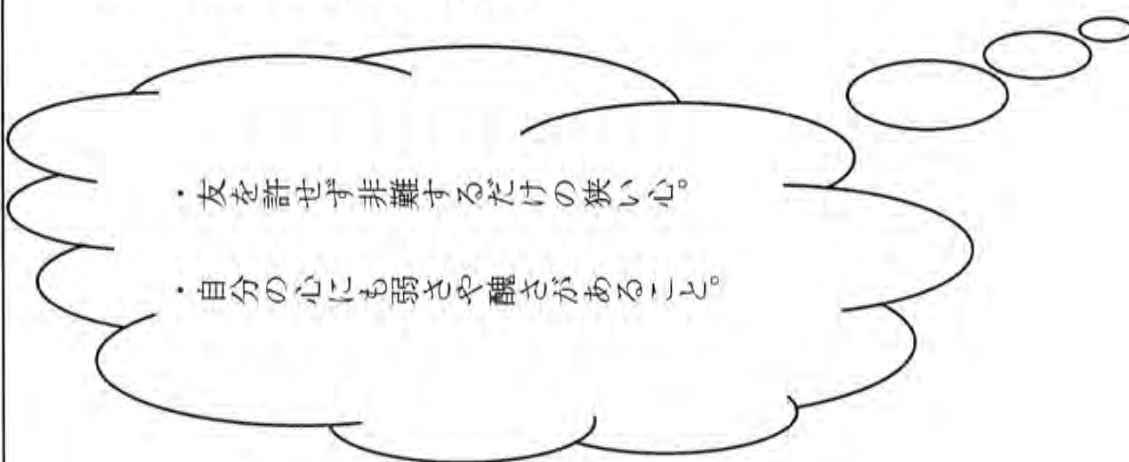
- ♥ 道信の心の弱さとはどんなことだろう。
 - ・好きな人のことが忘れられず修行を捨てたこと。
 - ・盗人になつたり死のうとしたりしたこと。

- ♥ 自分ならば道信を許せるだろうか。

【許せる】 自分の心の弱さに気づき、やり直そうとしているから。

【許せない】 裏切りが簡単に許せると思わせたくないから。

- ♥ 「人は皆、自分自身と向き合っていかなければならない。」と言つた上人が智行に気付いてほしいことはどんなことだろう。

- 
- ・友を許せず非難するだけの狭い心。
 - ・自分の心にも弱さや醜さがあること。

◎自分の中にある弱い心と強い心に気付こう。

- ♥ 自分より下手だった人が上手になると悔しい。
- ♥ それは自分に向上心があるからだ。自分も上手くなろうと努力していけばいいと気付いた。
- ♥ 相手によって態度を変えてしまう自分がいた。
- ♥ そんな自分を醜いと思うのは、美しい心を求めているからだ。

第3学年 組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時 場所 年 組教室

指導者 ○○ ○○

1 主題名 世界に貢献する 【C-18 国際貢献, 国際理解】

資料名 「海と空 - 樫野の人々-」(「私たちの道徳 中学校」文部科学省)

2 主題について

- (1) グローバル化が進展する社会の中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっている。ゆえに、将来の我が国を担う中学生には、国際的視野に立ち、日本人としての自覚をしっかりとって国際理解に努めることが必要である。日常生活の中で社会連帯の自覚に基づき、あらゆる時と場所において協働の場を実現していく努力こそ、平和で民主的な国家及び社会を実現する根本であり、国際的視野に立って世界の平和に貢献することにつながる。

中学校の段階では、全ての教科等の学習を通して、世界の様々な国々に対する興味・関心が高まってくる。そこで、他国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念を深め、世界の平和と人類の発展に貢献するという理想を抱き、その理想の実現に努めることが大切である。その理想を実現するための基本として、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見を持たずに公正、公平に接する心を育てていきたい。

- (2) 生徒たちの意識調査の結果では、「国際貢献には、どのような活動があると思うか」という問いに対して、「NGO」「青年海外協力隊」「国境なき医師団」「ボランティア活動」などの言葉を挙げた者が○人いた。また、「国際貢献に取り組みたいか」という問いに対して、○人(△%)が、「積極的に取り組みたい」、○人(△%)が、「機会があれば取り組みたい」、○人(△%)が、「あまり取り組みたくない」、○人(△%)が、「わからない」と回答していた。取り組みたくない理由の多くが、外国の人とうまく接する自信がないことや自分のことで精一杯であることなどが挙げられていた。

この意識調査の結果から、生徒たちは国際貢献の重要性は認識しているものの、具体的な内容については理解が乏しいといえる。また、興味を持っている者も少なく、自分とはあまり関係がないと思っている傾向が強い。更に、国際貢献へ取り組みようとする意欲は低く、理由から分析すると、日本と異なる外国の文化や環境に対する抵抗感や自分の置かれている立場が世界とつながっているという意識が低く、無意識に自他という境界線があるといえ、国際的な視野に立った人間愛を育てる必要がある。

- (3) 本資料は、イラン・イラク戦争に巻き込まれた日本人を、危険を冒して飛行機を飛ばせて救出したトルコ政府の行動と、遭難したトルコの軍艦の乗員を、身を犠牲にして救助した日本人(樫野の人々)の行動が人道的な心でつながっていることを語り伝える読み物である。トルコ政府が危険な救援機を飛ばしてくれた真の理由を知ろうとした「私」が、エルトゥールル号遭難展示室で館長から聞いた樫野の人々

の献身的な行動は、どの国の人々も同じ人間として公平に接する心を考えさせるのに適している。また、そうした日本人の深い人間愛に基づく心が時代を経て、トルコの人々の心に生き続けたという事実は、国際貢献とは何かを話し合う上で、適切な題材になる。

(4) 指導にあたっては、次の5点に留意する。

① 導入の段階

・「国際貢献」について、「外国でのボランティア活動」のような単純なイメージを持つ者が多いことや、行動ばかりに目が向き、身近なこととしてとらえがたいことに気付かせる。また、積極的に取り組むには、どのようにすればよいかと問いかけることで、本時の学習の方向付けをする。

ポイント

② 展開前段の段階

・樫野の人々がとった自己犠牲を伴う遭難者救出を是とする立場と自分が困るほどの犠牲を払わなくてもよいとする立場で議論を行う。その際に、もし、食料を出し惜しんだ場合に想定されることや、その時の心情を想像させつつ議論させたい。

・「海と空」が水平線で一つになっていたという言葉から、樫野の人々が、日本人もトルコ人も同じ人間として公平に接しようとした人間愛あふれる心が、今日のトルコの人々につながっていることに気付かせる。

③ 展開後段の段階

・導入段階で確認した「国際貢献」に対する最初の概念と、授業を通して学んだ「国際貢献」に対する考え方を比較することにより、変容を自覚し、自己評価させる。
・「国際貢献」に積極的に取り組むためには、まず、他国の人々も自分たちと同じように尊重し、公平に接しようとする心も持つことが重要であることに気付かせる。

④ 終末の段階

・地震や津波などの被害にあった国に、救援隊が派遣されることはよく耳にしているはずである。また、支援費用を募金したことのある生徒がいれば、そのときの思いを想起して、語らせることも考えられる。

⑤ 人権教育の視点から

・避難を伴うような災害を体験している生徒がいる場合は、そうした体験を詳細に思い出す問いかけをしないように心がける。

3 指導計画

	各教科等・その他	主な指導内容	体験活動等
事前	総合的な学習の時間 「世界の抱える課題と日本の関わり」	・世界が抱える課題や、日本と世界との関わりについて、個人テーマを設定し、調べ学習を行い、レポートや発表資料にまとめる。	調べたことをポスターセッション形式で発表する。
本時	・主題名 世界に貢献する ・資料名 「海と空 ー樫野の人々ー」	・中心価値 C-18 国際理解, 国際貢献	
事後	学級活動(進路学習) 「将来の夢・人生設計を考える」	・進学や就職を考える際に、これからの国際化社会を見据えて、どのように世界と関わって働いていくかを考えさせる。	作文活動 テーマ「国際化社会を生きる」

4 本時の学習

(1) ねらい 樫野の人々の思いを共感的に理解させることを通して、日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野から貢献をしようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 ☆評価	備考
導入 5分	1 「国際貢献」に対する自分の考えや思いを発表する。	日本人として、私たちにできる「国際貢献」とは何でしょう。	○資料を参考に「国際貢献」を自分が関わる活動として具体的に考えさせることで、価値への方向付けをする。	「私たちの道徳」 P.217
展開 前段 30分	2 資料「海と空—樫野の人々—」を読んで話し合う。 (1) 展示物を見ても、「私」が20年近く抱いてきた疑問に納得できないのはなぜか考える。 (2) 自分たちの食料を全て使って外国の遭難者を救おうとしたときの樫野の人々の思いを考える。 (3) 水平線を見ながら、「私」はどのように長年の疑問を解いたのか考える。	遭難事件を知っても、長年の疑問に「私」が納得しないのはなぜでしょう。 ・親日的というだけは自国民より日本人を優先しないだろう。 ・危険を冒してまで外国人を救助する気持ちが分からない。 樫野の人々は、どんな思いで食料を全部使って外国の遭難者を救おうとしたのでしょうか。 ・人の命が何より大事だ。 ・国に関係なく、同じ人間だ。	○地理的状況や時代背景などを補足する。 ○百年以上前の出来事だけに理由に、危険な救助へ自分だったら行くかどうかを考えさせ、「私」の納得しない気持ちに共感させる。 【考え・議論する場】(ポイント) ○樫野の人々の思いをまとめた後、彼らの考えの立場と、自分が困るほど自己犠牲をしなくてもよいという考えの立場で議論させる。 ☆仮定した状況で想像される人々の心情を根拠にして議論することができたか。	補足資料 ワークシート
展開 後段 10分	3 資料を通して学んだことを基に「国際貢献」について考えを深める。	私たちにできる「国際貢献」とは何か、もう一度考えてみましょう。 ・誰彼の別なく助けたいという心が時空を超えて両国につながり、救出機が出されたこと。	○自分たちと外国人を同じ人間として公平に救おうとした心がトルコ人の心の中にも生き続け、同じような行動を起こしたことに気付かせる。 ○人種・国境・文化の違いを越えた深い人間愛を持って助け合うことに気付かせる。	「私たちの道徳」 P217

			☆導入時と比較できたか。	
終末 5分	4 教師の説話を聞く。	大地震が発生した国へ各国がどのように対応しているか話します。	○政治的な対立などに関係なく人道的な立場から救助隊や支援金がすぐさま送られてくることを具体的に話す。	

道徳教育アンケート

3年組 号 名前 ()

1 国際貢献には、どのような活動があると思いますか。

「私たちの道徳」P212～217を参考にして書いてください。

2 国際貢献をしている人たちのニュースや活動を見て、あなたは どう 思いますか。

3 あなたは、国際貢献に取り組んでみたいと思いますか。次の中から一つ選び、その理由も書いてください。

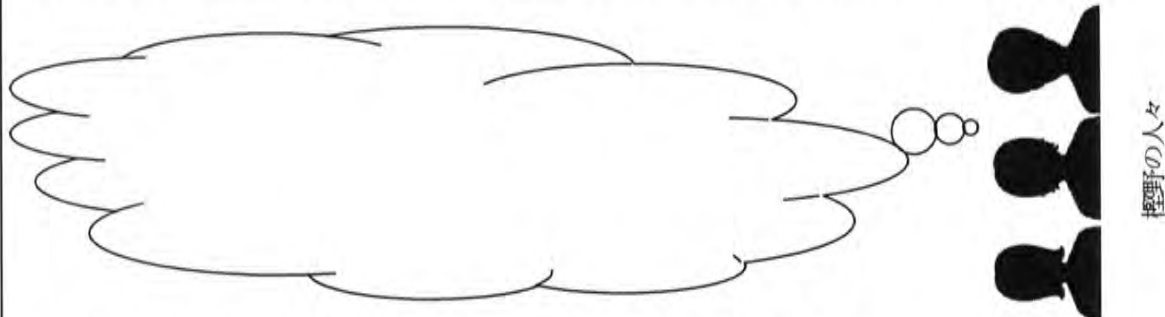
- ア 積極的に取り組みたい
- イ 機会があれば取り組みたい
- ウ あまり取り組みたくない
- エ わからない

理由

4 国際貢献をするためには、何が 必要 だ と思いますか。

「海と空」 3年（ ）組（ ）号 氏名（ ）

○樫野の人々は、どんな思いで食料を全部使って外国の遭難者を救おうとしたのでしょうか。



○「海と空」が水平線でつながっているのを見ながら、「私」が気付いたことは何でしょうか。



学習の振り返り 4(よくできた)・・・1(できなかった)を○でかくむ。

◎ワークシートの例

- ① 資料の登場人物の気持ちを考えることができましたか？ 【4・3・2・1】
- ② 自分の考えが広がったり、深まったりしましたか？ 【4・3・2・1】
- ③ 自分の心を見つめることができましたか？ 【4・3・2・1】

◎板書の例



○ 私たちにできる「国際貢献」と何だろうか？

- ・ 分け隔てなく助け合うこと。
- ・ 誰の命も大切にしたい。

「海と空」 — 檜野の人々 —

・ 人の命が何より大事だ。
・ 国に関係なく同じ人間だ。

檜野の人々

100年以上昔
檜野でエルトゥールル号の遭難
者を救助



イラン・イラク戦争
戦場化するイランに在留の日本人
216人
トルコが救援機派遣

「私」

・ 親目的だけで日本人優先するの
か？
・ なぜ危険を冒してまで救出するの
か？



檜野

・ 同じ人間として命を救いたいという心

トルコ ← つなぐ →



ポイント 対立する意見を対比的に書き込む

『平成27年度 道徳の授業づくりポイント集』

作成委員（五十音順）

小学校編

泉ヶ丘小学校	教諭	岩野	智典
龍田小学校	教諭	倉迫	信子
河内小学校	教諭	香山	紀子
託麻南小学校	教諭	柴田	弘之
一新小学校	教諭	豊川	実
池田小学校	教諭	中島	麗子
北部東小学校	教諭	西	美由紀
御幸小学校	教諭	原	春香
飽田東小学校	教諭	本村	里香
本荘小学校	教諭	安井	琴美

中学校編

託麻中学校	教諭	出田	久斉
長嶺中学校	主幹教諭	岩崎	孝文
飽田中学校	教諭	上野	圭子
武蔵中学校	教諭	北川	純子
竜南中学校	教諭	北崎	玲子
花陵中学校	教諭	木下	修二
白川中学校	教諭	角田	美香
北部中学校	教諭	藤本	正子
東野中学校	教諭	松永	真弓
井芹中学校	教諭	松原	三也子

『平成27年度 道徳の授業づくりポイント集』は、熊本市教育委員会が道徳教育ブックリーダーの協力を得て作成・編集し、熊本市内の小中学校へ配布するものです。本書に関わる著作権は、熊本市教育委員会にあります。

